

令和5年度第2回茨木市環境審議会

茨木市の環境に関するアンケート 調査結果

令和5年11月20日

0. アンケート調査の概要

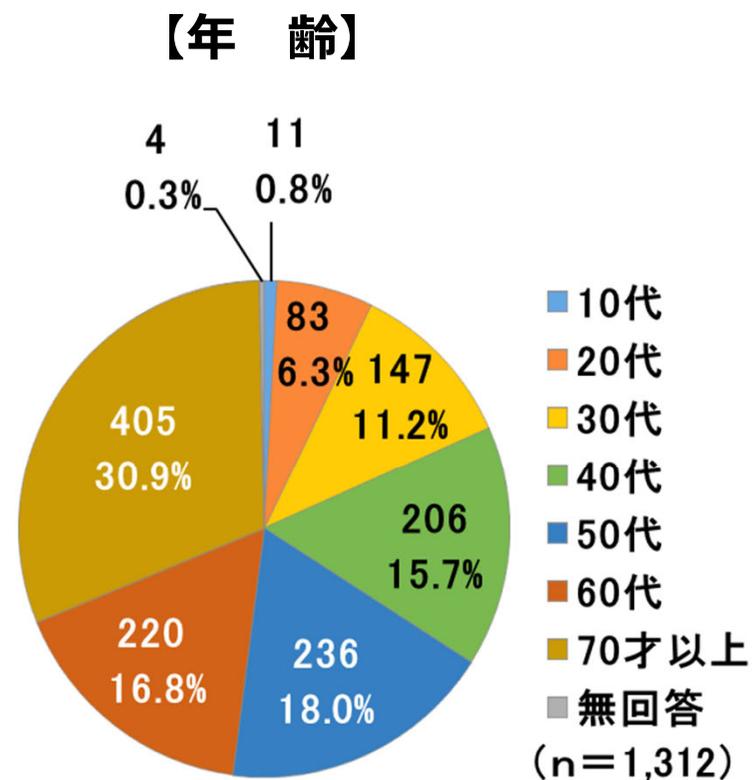
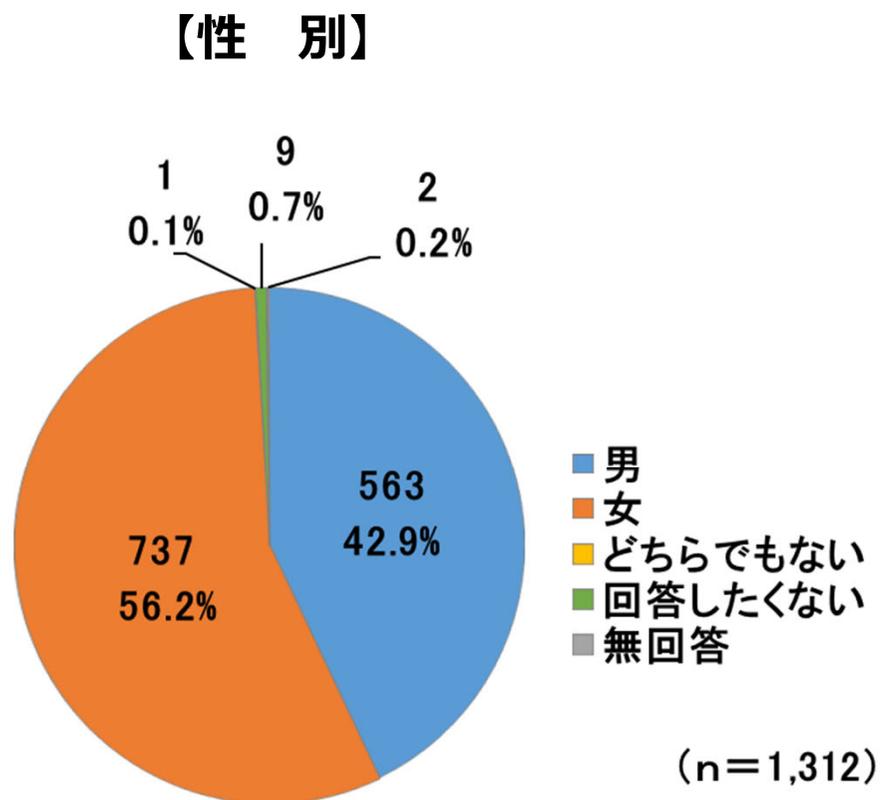
	市民	事業者	大学生
目的	再生可能エネルギー導入に向けた計画の策定に当たって、再生可能エネルギーや省エネルギーなど、環境に関する市民のみなさまの関心などについて調査し、今後の検討のための基礎資料とすることを目的とする。	再生可能エネルギー導入に向けた計画の策定に当たって、市内事業者のみなさまの関心や、地球温暖化対策への意識・取組状況などについて調査し、今後の検討のための基礎資料とすることを目的とする。	再生可能エネルギー導入に向けた計画の策定に当たって、再生可能エネルギーや省エネルギーなど、環境に関する大学生のみなさまの関心などについて調査し、今後の検討のための基礎資料とすることを目的とする。
期間	令和5年9月15日（金） ～10月13日（金）	令和5年9月29日（金） ～10月14日（土）	令和5年10月13日（金） ～10月27日（金）
対象	住民基本台帳から18歳以上の市民が在住する2,000世帯を無作為抽出	市内の事業所から256事業所を抽出	市内6大学（藍野大学・藍野大学短期大学部、追手門学院大学、大阪行岡医療大学、梅花女子大学及び立命館大学）
方法	郵送で調査票を発送し、郵送による返信またはWEB回答で回収	郵送で調査票を発送し、郵送による返信またはWEB回答で回収	WEB回答で回収
回答	回答数1,021世帯(1,312人) （うちWEB回答300人） 有効回答率51.1%	回答数70事業所 （うちWEB回答16事業所） 有効回答率27.3%。	回答数36人

1. 市民アンケート調査結果

1. 1 回答者の属性

(1) 性別・年齢

- 性別は、「男性」が42.9%、「女性」が56.2%となっている。
- 年齢は、「70才以上」が30.9%と最も高く、次いで「50代」の18.0%、「60代」の16.8%となっている。

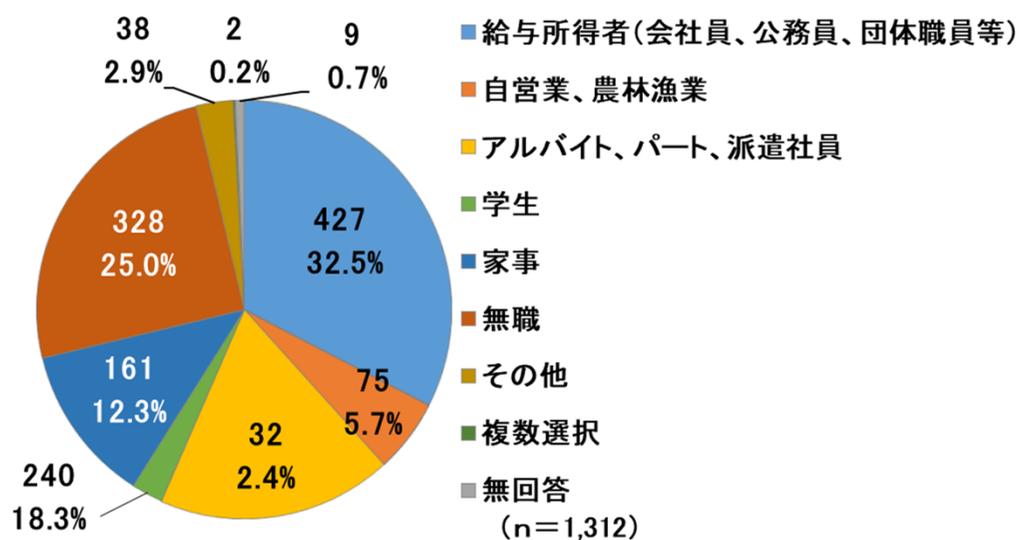


1. 1 回答者の属性

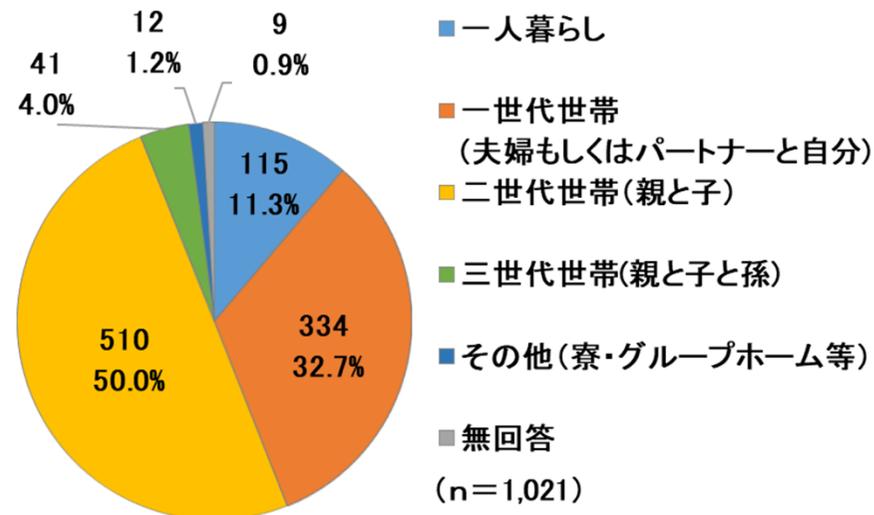
(2) 職業・家族構成

- 職業別は、「給与所得者」が32.5%と最も高く、次いで「無職」が25.0%となっている。
- 家族構成は、「二世代会帯（親と子）」が50.0%と最も高く、次いで「一世代会帯（夫婦等）」が32.7%となっている。

【職業】



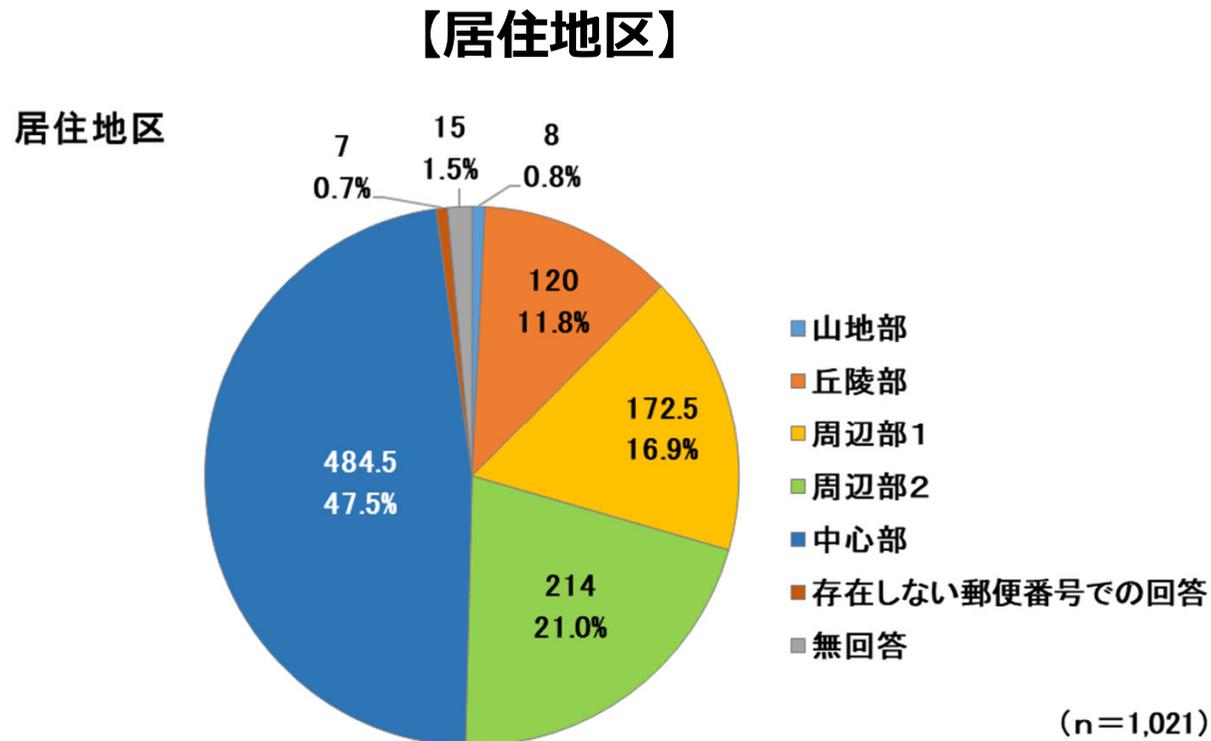
【家族構成】



1. 1 回答者の属性

(3) 居住地区

- 居住地区については、中心部が47.3%と最も高く、次いで周辺部2が21.6%となっている。



※各地域は下記の小学校区で分類しています。

山地部：清溪、忍頂寺

丘陵部：安威、福井、豊川、山手台、彩都西

周辺部1：郡山、太田、郡、沢池、耳原、西、西河原

周辺部2：玉島、東、天王、葦原、白川、東奈良

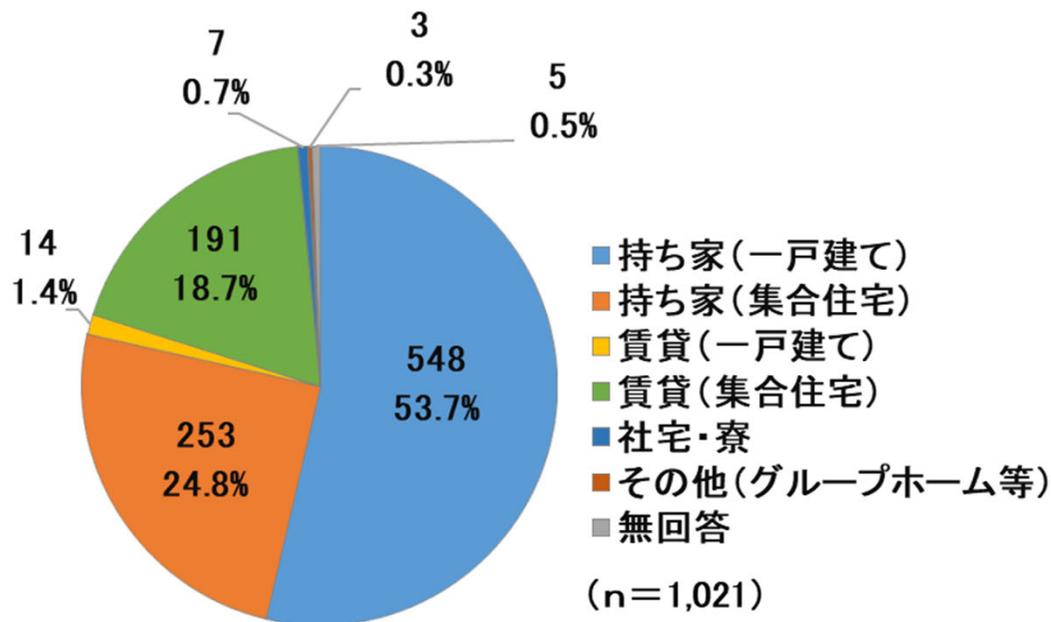
中心部：茨木、春日、春日丘、三島、中条、玉櫛、大池、中津、水尾、庄栄、畑田、穂積

1. 1 回答者の属性

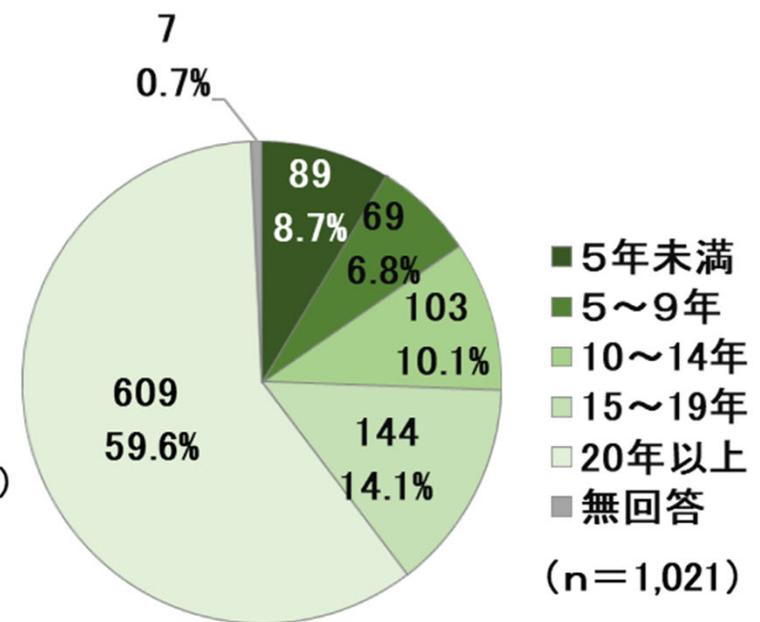
(4) 住宅形態及び築年数

- 住宅形態は、「持ち家（一戸建て）」が53.7%と最も高く、次いで「持ち家（集合住宅）」が24.8%となっている。
- 築年数は、「20年以上」が59.6%と最も高く、次いで「15～19年」の14.1%となっている。

【住宅形態】



【住宅の築年数】

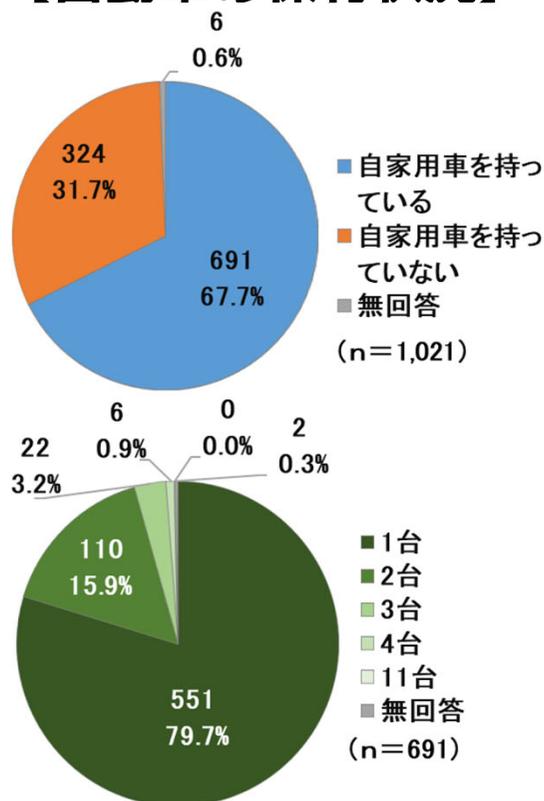


1. 1 回答者の属性

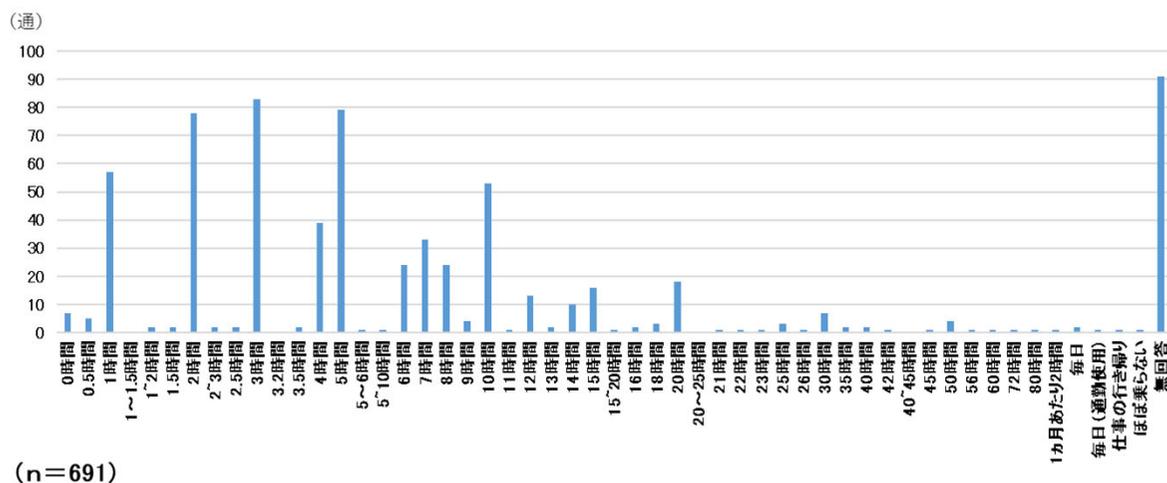
(5) 自動車の保有状況・使用頻度

- 自動車の保有状況は、67.7%の世帯が1台以上保有しており、保有台数は1台が79.7%と最も高い。
- 自動車の使用頻度としては、3時間/週が最も多く、次いで5時間/週、2時間/週の使用となっている。

【自動車の保有状況】



【自動車の使用頻度】

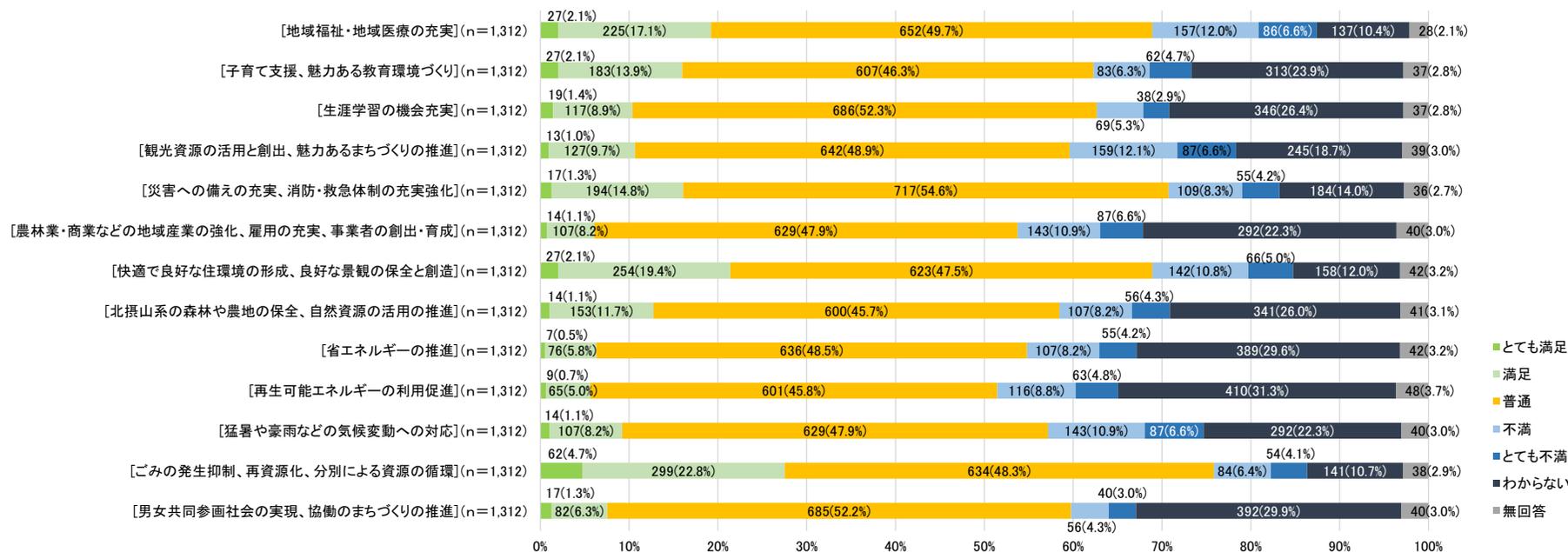


1. 2 茨木市の現状への満足度・重要度

(1) 現状への満足度

- 現状への満足度は、「ごみの発生抑制、再資源化、分別による資源の循環」が最も高く、次いで「快適で良好な住環境の形成、良好な景観の保全と創造」となっている。
- 地球温暖化に関する項目「省エネルギーの推進」「再生可能エネルギーの利用促進」「猛暑や豪雨などの気候変動への対応」の満足度は、他の項目よりも低くなっている。

【現状への満足度】



1. 2 茨木市の現状の満足度・重要度

(2) 現状の重要度

- 現状の重要度は、「災害への備えの充実、消防・救急体制の充実強化」が最も高く、次いで「地域福祉・地域医療の充実」となっている。
- 地球温暖化に関する項目「省エネルギーの推進」「再生可能エネルギーの利用促進」の重要度は他の項目よりも低く、「猛暑や豪雨などの気候変動への対応」は、他の項目よりも高くなっている。

【現状の重要度】

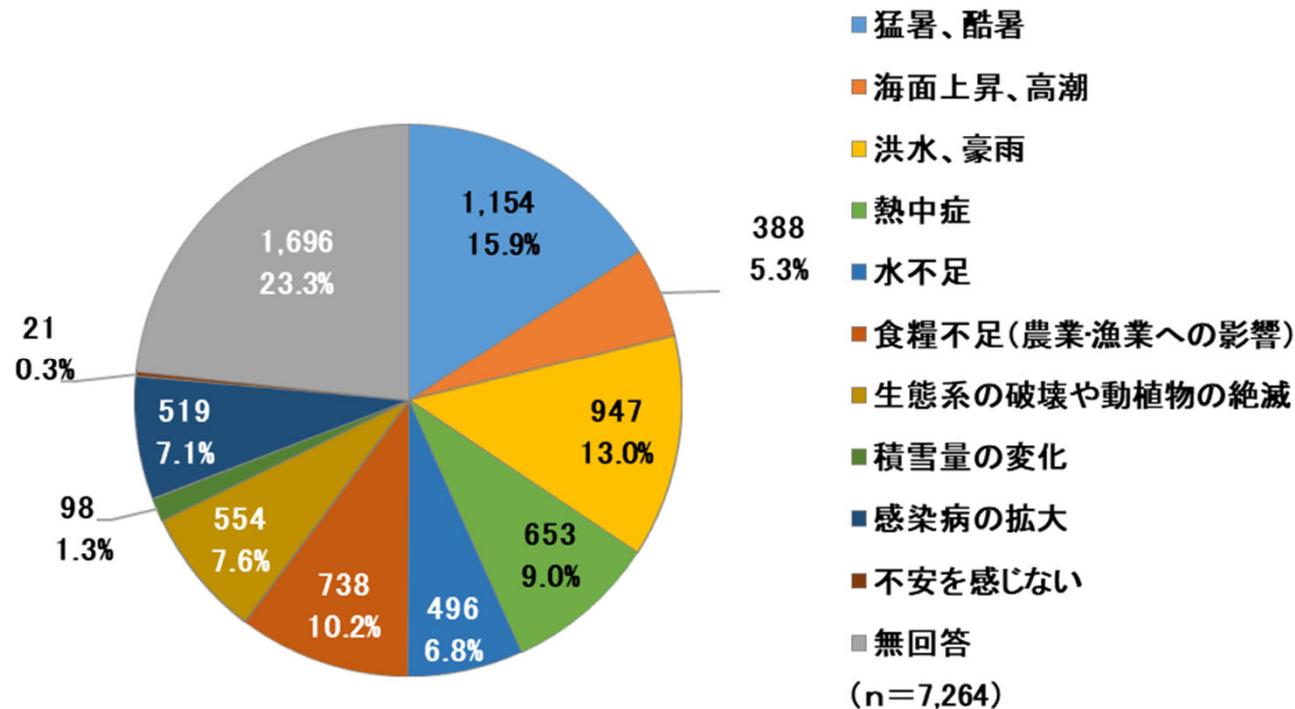


1. 3 地球温暖化への不安・対策への要望

(1) 地球温暖化への不安

- 地球温暖化への不安は、「猛暑、酷暑」が15.9%ともっと高く、次いで「洪水、豪雨」が13.0%、「食料不足」が10.2%となっている。
- なお、無回答が23.3%となっている。

【地球温暖化への不安】



※ 複数回答可。

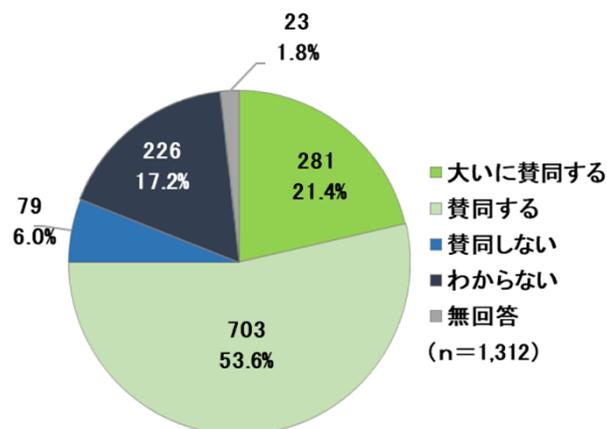
1. 3 地球温暖化への不安・対策への要望

(2) 地球温暖化対策の目標への賛同

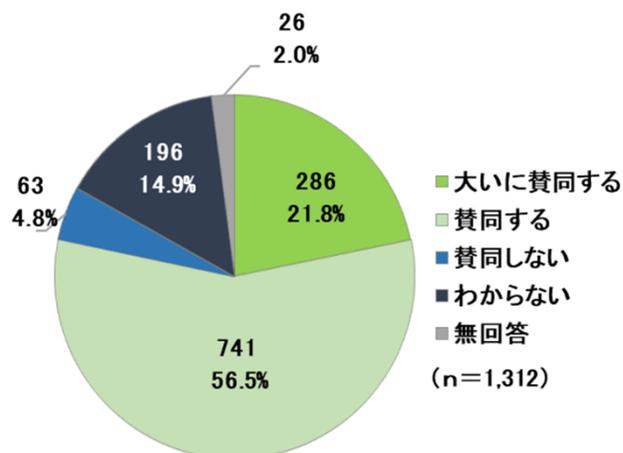
- 地球温暖化対応の目標は、どの項目も約75%以上が「大いに賛同する」「賛同する」となっている。

【地球温暖化対策の目標への賛同】

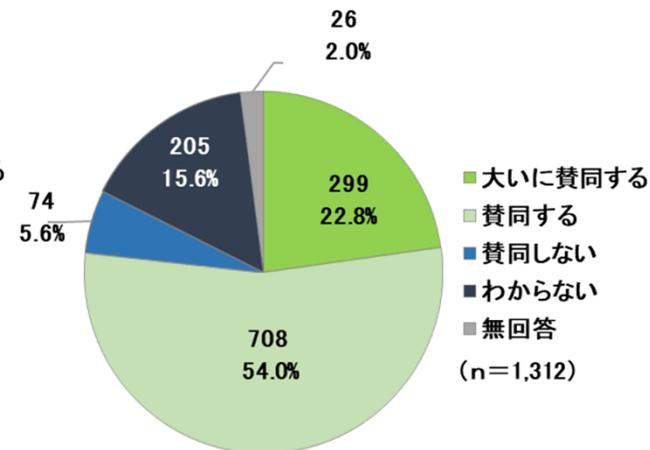
「2050年までに、温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする（2050年カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指す）。」ということを宣言しています。



「2030年度において、温室効果ガスを2013年度から46%削減することを目指す。さらに、50%削減に向け、挑戦を続けていく。」ということを目指しています。



「電力において、再生可能エネルギーが占める割合を、現状（2019年度）の18%程度に対して、2030年度に36～38%程度を見込む。」という見通しを示しています。

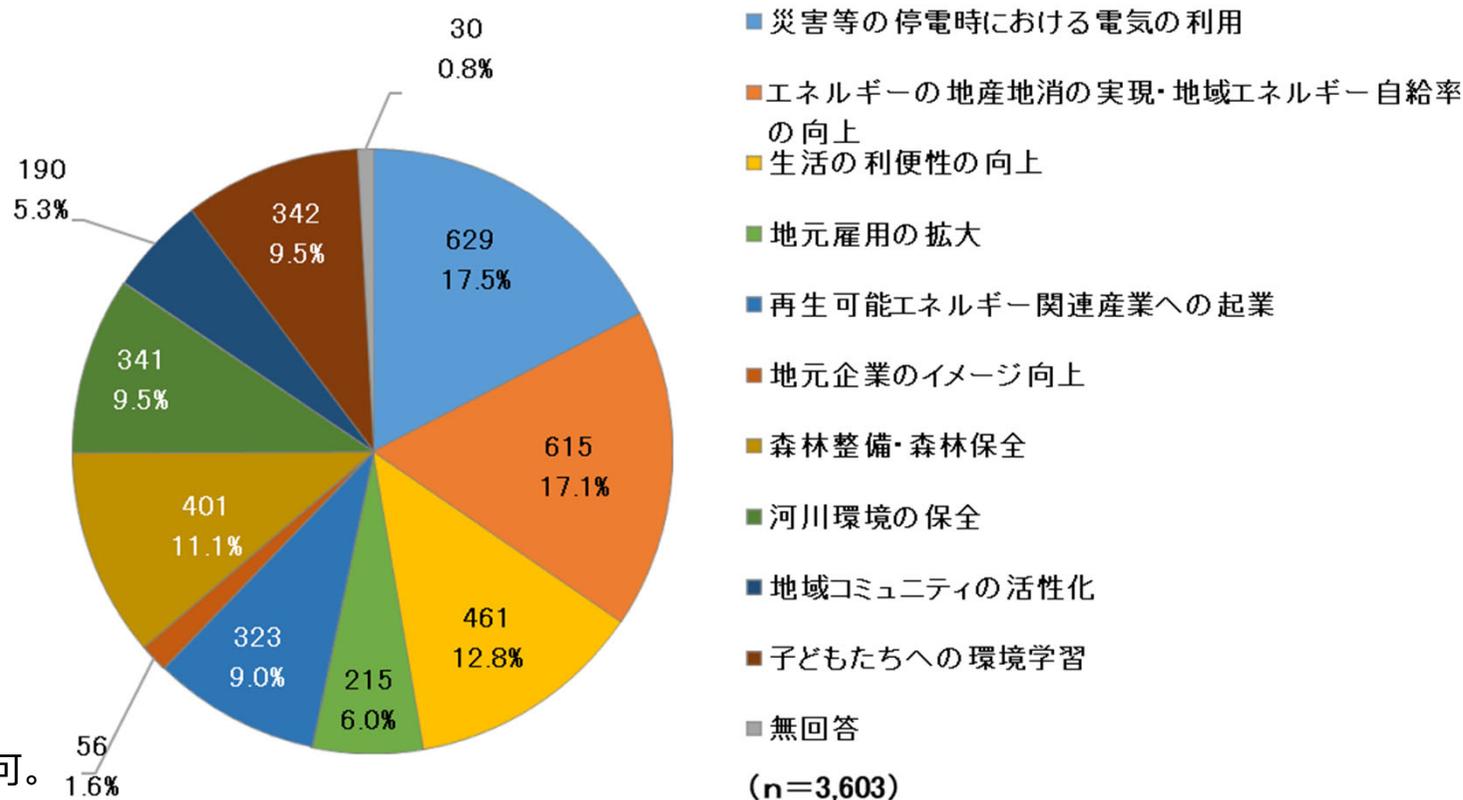


1. 3 地球温暖化への不安・対策への要望

(3) 地球温暖化対策への要望

- 地球温暖化対策への要望は、「災害等の停電時における電気利用」が17.5%と最も高く、次いで「エネルギーの地産地消の実現・地域エネルギー自給率の向上」が17.1%、「生活の利便性の向上」が12.8%となっている。

【地球温暖化対策への要望】



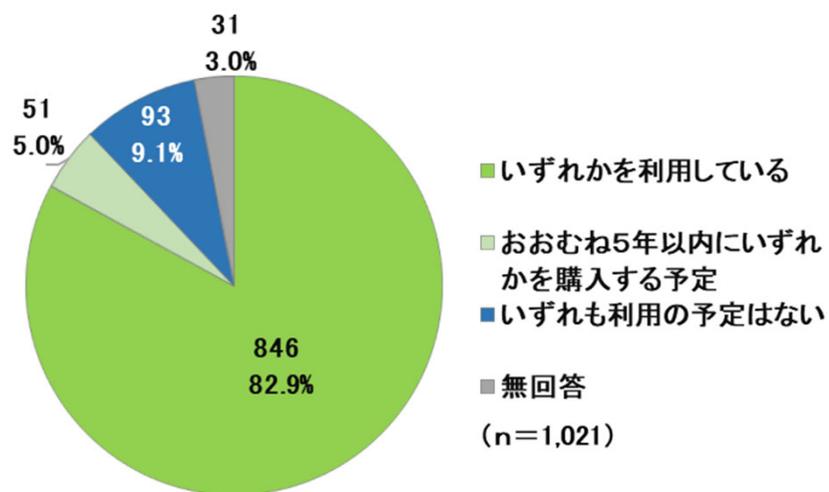
1. 4 省エネ対策や再エネ導入への考え

(1) 省エネ・再エネ設備の利用状況

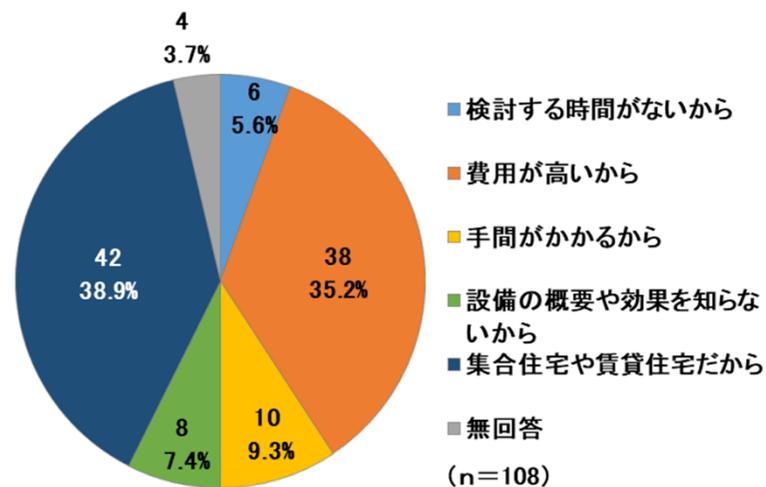
- LED照明・省エネルギー型家電の利用状況は、「いずれかを利用している」が82.9%となっている一方で、9.1%が「利用予定はない」となっている。
- 利用予定がない理由は、「集合住宅や賃貸住宅だから」が38.9%と最も高く、次いで「費用が高いから」が35.2%となっている。

① LED照明・省エネルギー型家電 (エアコン、テレビ、便座、冷蔵庫など)

【利用状況】



【利用予定がない理由】



※ 理由は、複数回答可。

1. 4 省エネ対策や再エネ導入への考え

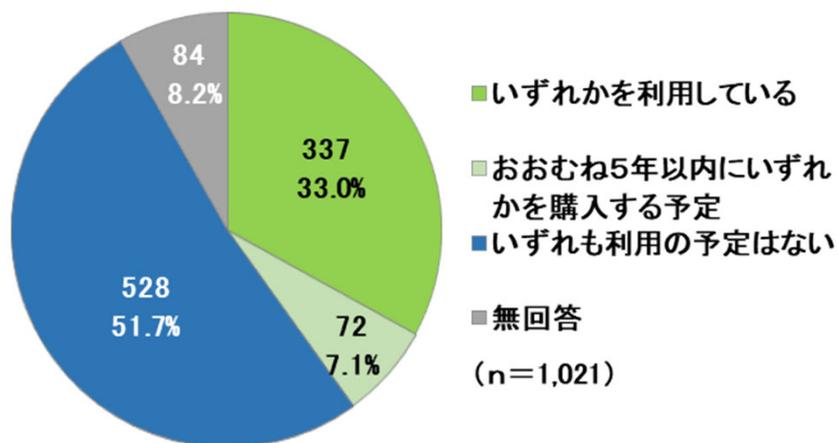
(1) 省エネ・再エネ設備の利用状況

- 住宅関連設備の利用状況は、「いずれかを利用している」が33.0%となっている一方で、51.7%が「利用予定はない」となっている。
- 利用予定がない理由は、「集合住宅や賃貸住宅だから」が46.5%と最も高く、次いで「費用が高いから」が31.5%となっている。

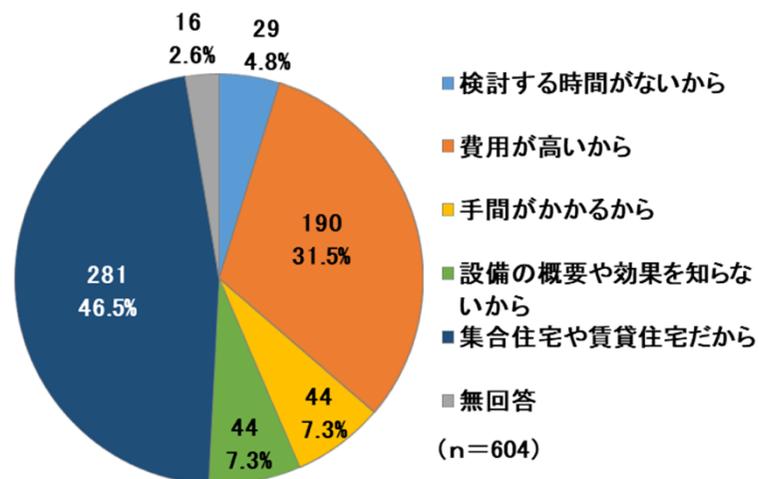
②住宅関連設備

(断熱窓、高反射塗装・断熱フィルム、雨水貯留タンク、高効率給湯器、家庭用燃料電池システムなど)

【利用状況】



【利用予定がない理由】



※ 理由は、複数回答可。

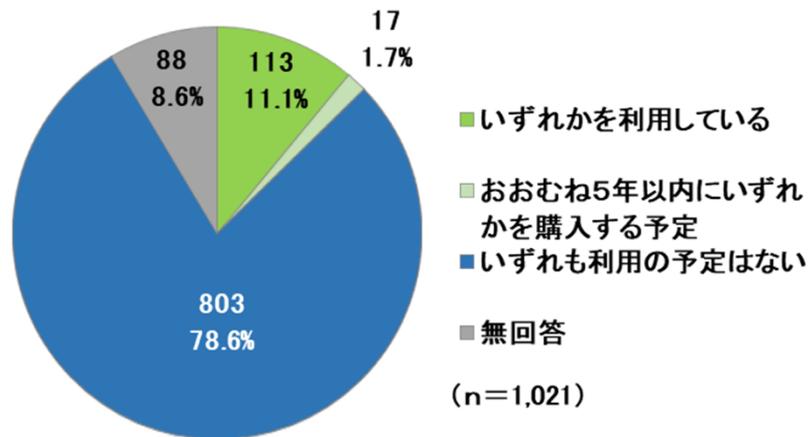
1. 4 省エネ対策や再エネ導入への考え

(1) 省エネ・再エネ設備の利用状況

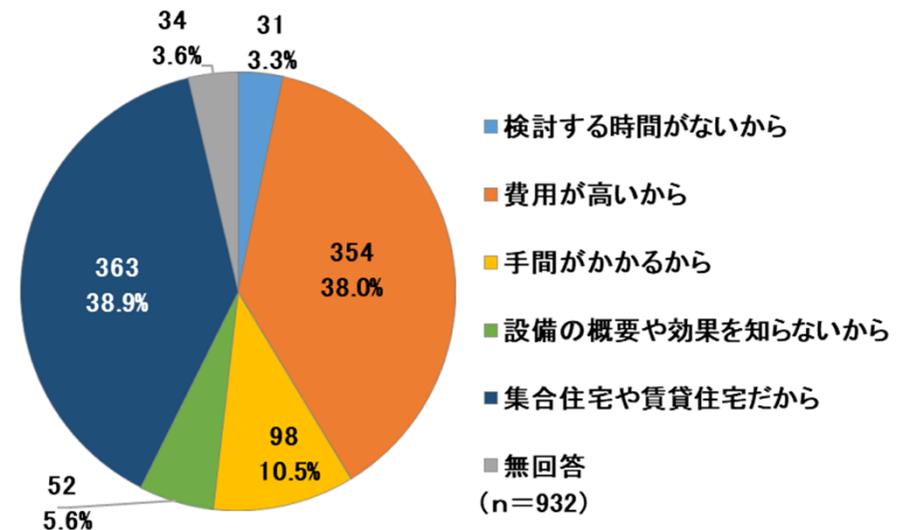
- 太陽光発電システムの利用状況は、「利用している」が11.1%となっている一方で、78.6%が「利用予定はない」となっている。
- 利用予定がない理由は、「集合住宅や賃貸住宅だから」が38.9%と最も高く、次いで「費用が高いから」が38.0%となっている。

③太陽光発電システム

【利用状況】



【利用予定がない理由】



※ 理由は、複数回答可。

1. 4 省エネ対策や再エネ導入への考え

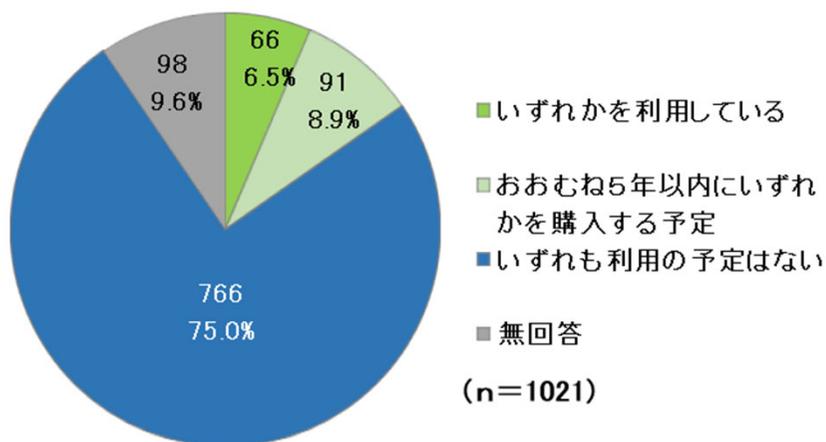
(1) 省エネ・再エネ設備の利用状況

- 電気自動車の利用状況は、「いずれかを利用している」が6.5%となっている一方で、75.0%が「利用予定はない」となっている。
- 利用予定がない理由は、「費用が高いから」が51.4%と最も高く、次いで「集合住宅や賃貸住宅だから」が17.3%となっている。

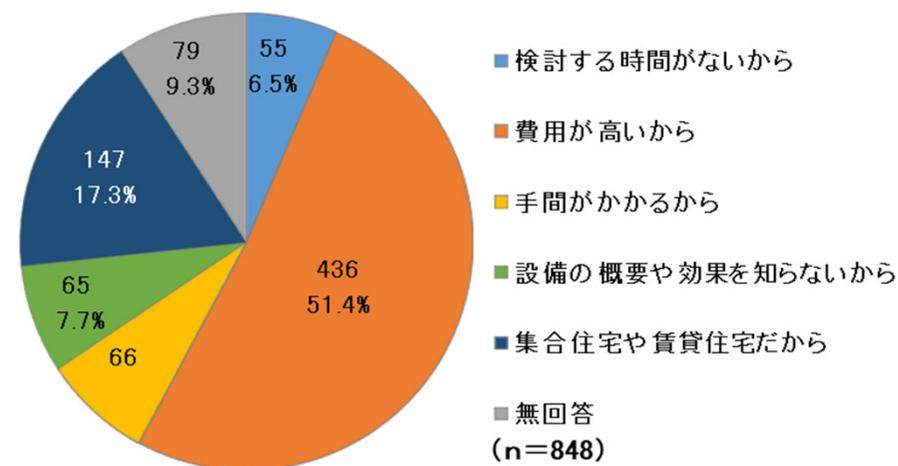
④電気自動車

(プラグインハイブリッド自動車、燃料電池自動車を含む)

【利用状況】



【利用予定がない理由】



※ 理由は、複数回答可。

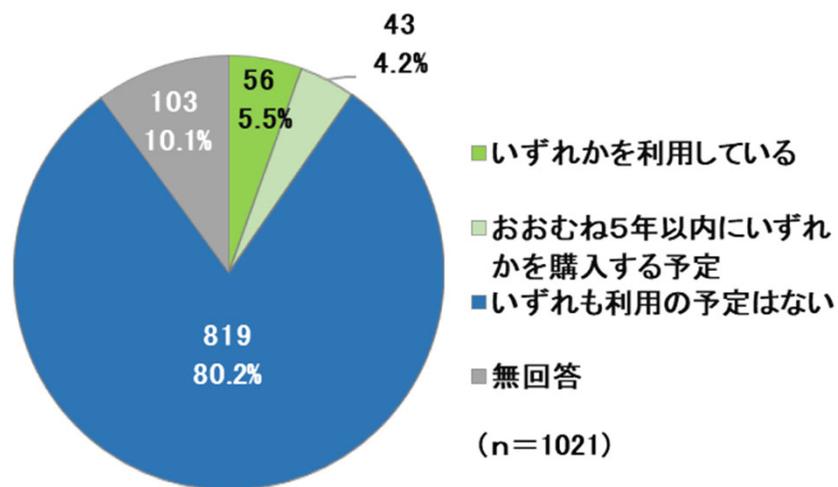
1. 4 省エネ対策や再エネ導入への考え

(1) 省エネ・再エネ設備の利用状況

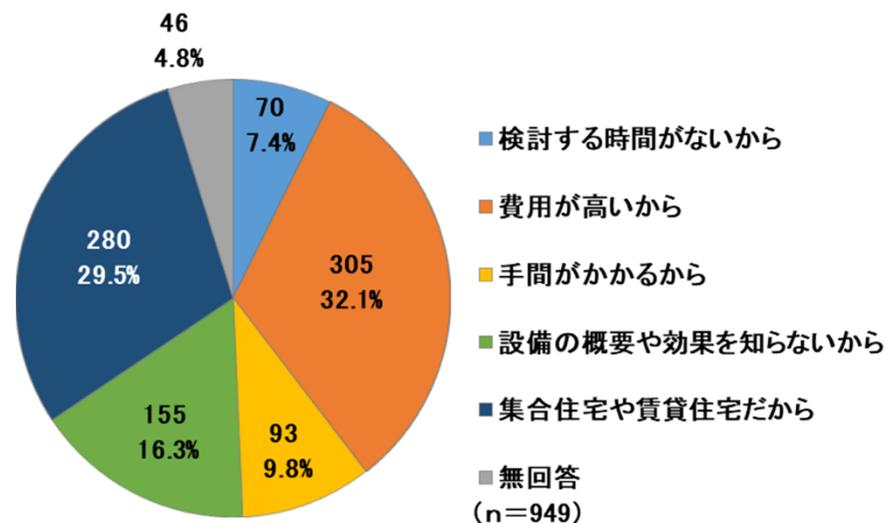
- 100%再エネ電気への切替の利用状況は、「利用している」が5.5%となっている一方で、80.2%が「利用予定はない」となっている。
- 利用予定がない理由は、「費用が高いから」が32.1%と最も高く、次いで「集合住宅や賃貸住宅だから」が29.5%となっている。

⑤ 100%再エネ電気への切替

【利用状況】



【利用予定がない理由】



※ 理由は、複数回答可。

1. 4 省エネ対策や再エネ導入への考え

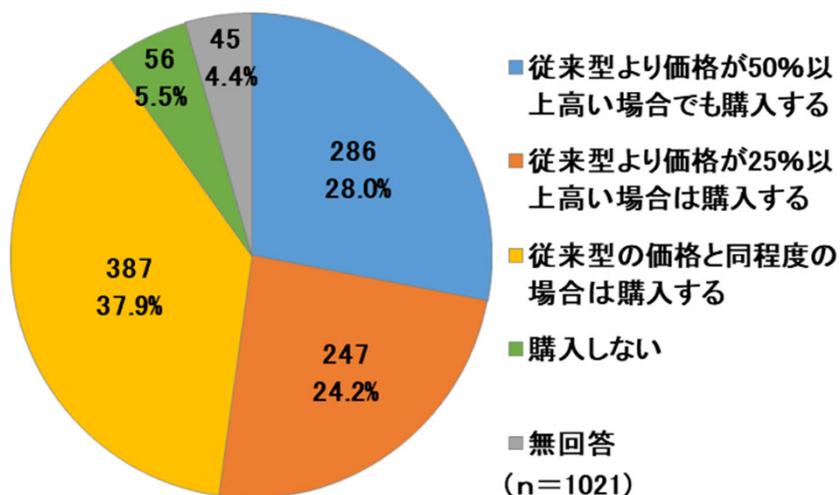
(2) 省エネ・再エネ設備の将来の購入予定

- 省エネルギー型家電の将来の購入予定は、52.2%が「価格が50% or 25%以上高い場合でも購入する」となっている。
- 住宅関連設備の将来の購入予定は、38.8%が「価格が50% or 25%以上高い場合でも購入する」となっている。

【将来の購入予定】

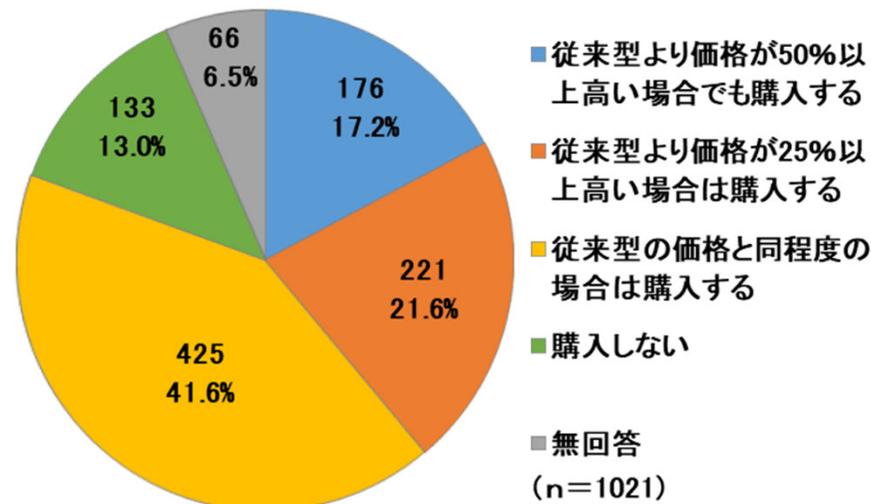
○省エネルギー型家電

(LED照明、エアコンなど)



○住宅関連設備

(高効率給湯器、断熱窓など)



1. 4 省エネ対策や再エネ導入への考え

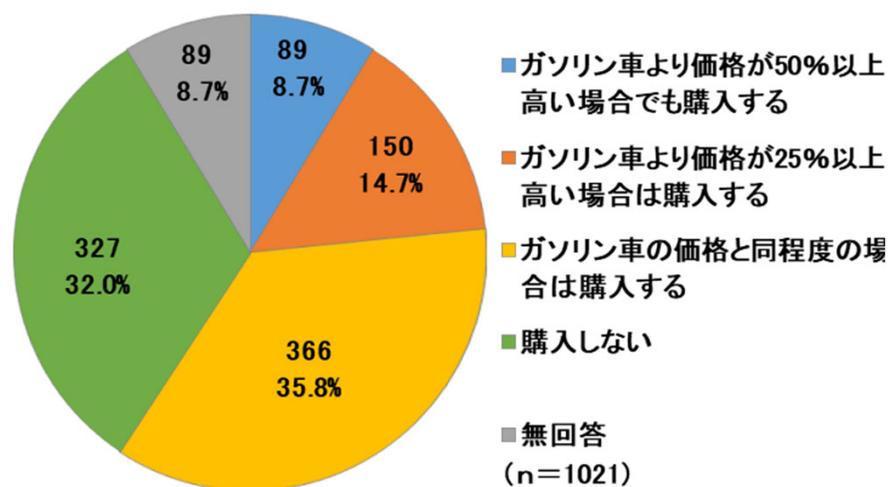
(2) 省エネ・再エネ設備の将来の購入予定

- 電気自動車等の将来の購入予定は、23.4%が「価格が50% or 25%以上高い場合でも購入する」となっている。
- 太陽光発電設備の将来の購入予定は、41.1%が「補助制度を活用して／拡充（2倍・4倍）されれば購入する」となっている。

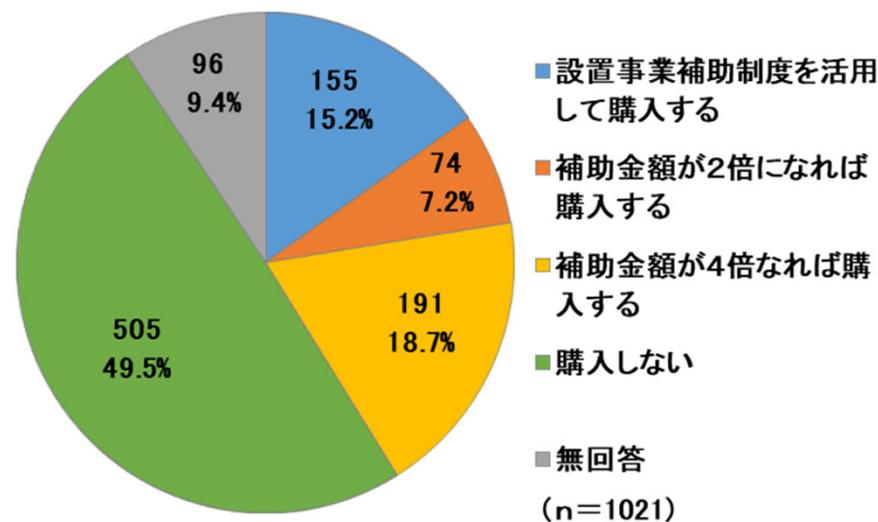
【将来の購入予定】

○電気自動車等

(プラグインハイブリッド自動車、燃料電池自動車を含む)



○太陽光発電設備

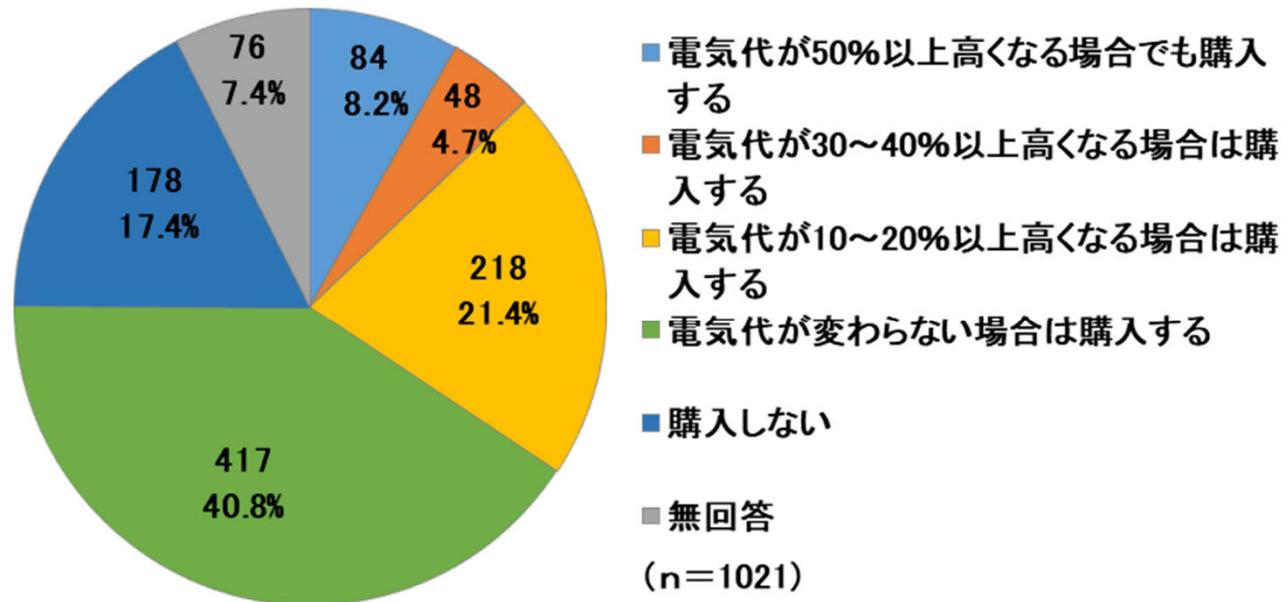


1. 4 省エネ対策や再エネ導入への考え

(3) 100%再生可能エネルギー電気への切替

- 100%再生可能エネルギー電気への切替については、34.3%が「価格が10%以上高くなる場合でも購入する」となっている。

【100%再生可能エネルギー電気への切替】

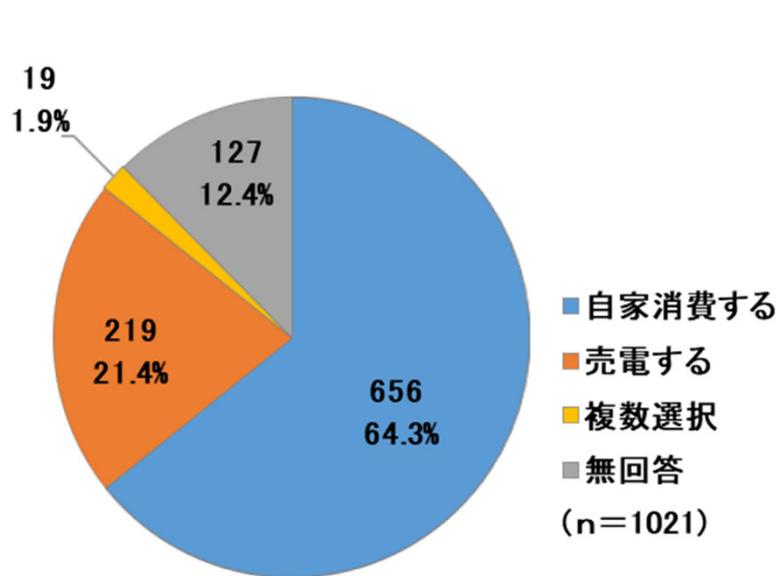


1. 4 省エネ対策や再エネ導入への考え

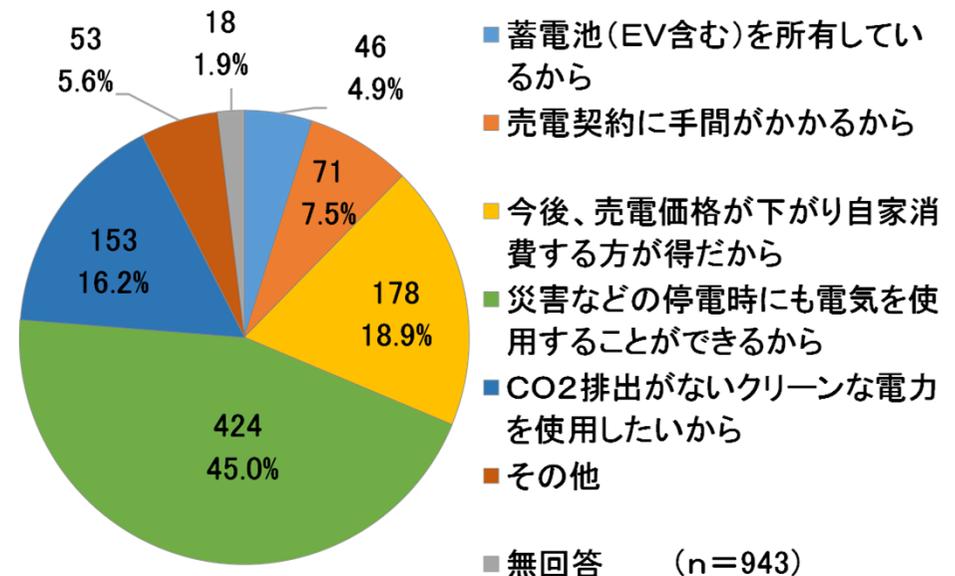
(4) 自宅の太陽光発電で発電した電気の利用方法

- 自宅の太陽光発電で発電した電気は、「自家消費する」が64.3%、「売電する」が21.5%となっている。
- 自家消費する理由については、「災害などの停電時にも電気を使用することができるから」が45.0%と最も高く、次いで「今後、売電価格が下がり自家消費する方が得だから」が18.9%となっている。

【自宅で発電した電気の利用方法】



【自家消費する場合の理由】



※ 理由は、複数回答可。

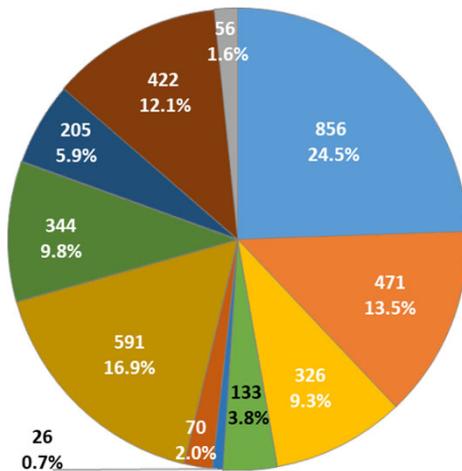
1. 4 省エネ対策や再エネ導入への考え

(5) 再エネ設備の普及に対する考え

- 再エネ設備の普及に対する考えは、太陽光発電は「公共施設の多くに設置する」が24.5%、小水力発電は「川のいきものがまもられる」が16.3%、木質バイオマス利用が「工場・事業所のボイラーで熱利用する」が15.7%と最も高くなっている。

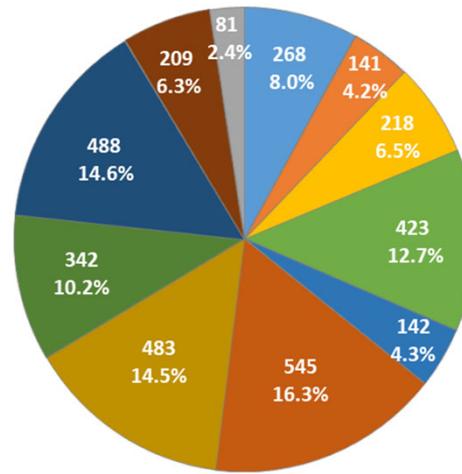
【再エネ設備の普及に対する考え】※ 複数回答可。

○太陽光発電



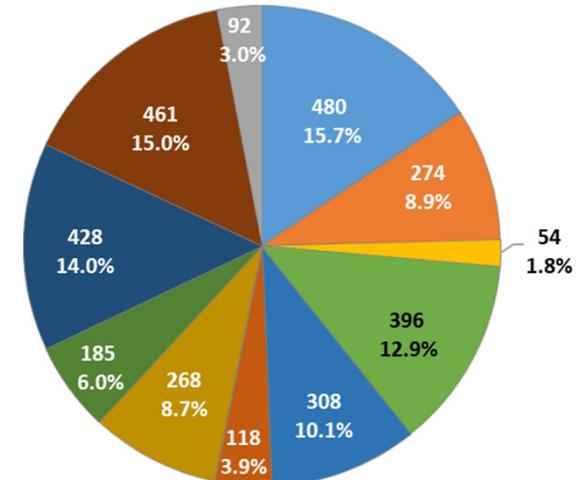
- 公共施設の多くに設置する
 - 事業所・工場の多くに設置する
 - 住宅(戸建て・集合)の多くに設置する
 - 遊休地の多くに設置する
 - 田畑に多く設置する
 - 山地に多く設置する
 - 蓄電して夜間や災害時に利用する
 - 発電した電気を地域で地産地消する
 - 景観(斜面地・山林・水面などを保全する
 - 太陽光パネルを適切に廃棄する仕組みを作る
 - 無回答
- (n=3500)

○小水力発電



- 山地部の小河川に設置する
 - 農業用水路に設置する
 - 水道施設に設置する
 - 河川環境を変えないコンクリート施設にする
 - 河川の水量が変わらない
 - 川のいきものがまもられる
 - 蓄電して夜間や災害時に利用する
 - 発電した電気を地域で地産地消する
 - 河川の環境を整備・保全する
 - 水音や発電機の騒音の拡散を防止する
 - 無回答
- (n=3340)

○木質バイオマス利用



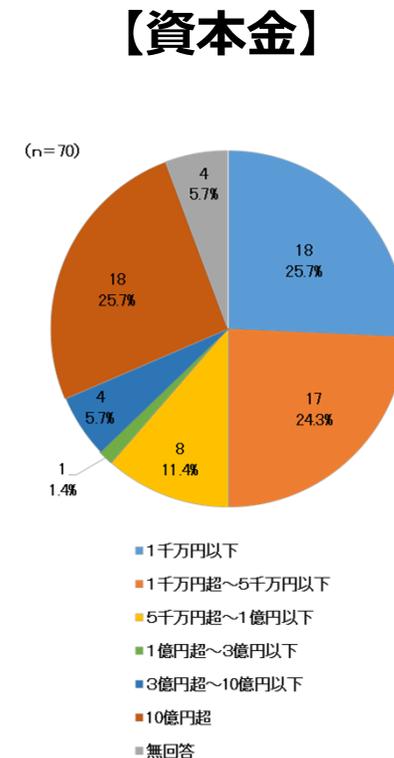
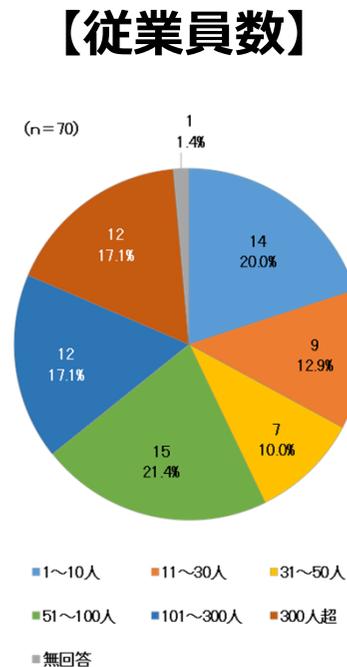
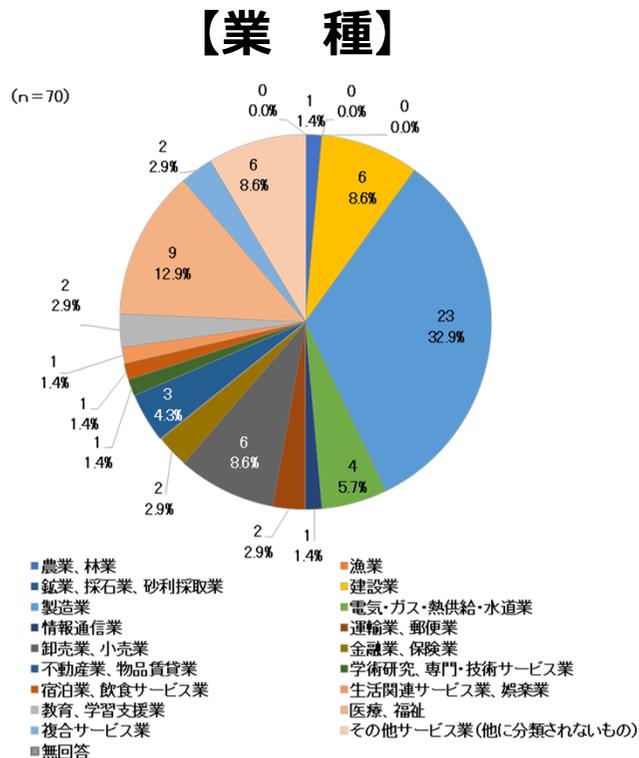
- 工場・事業所のボイラーで熱利用する
 - 温浴施設のボイラーで熱利用する
 - 家で薪や炭を燃料として利用する
 - 体育館・プールで熱利用する
 - 木質バイオマス発電所で発電する
 - 市内で木質バイオマスを生産する
 - 森林整備により間伐材の生産量を増加する
 - 木質チップ・ペレット工場を整備する
 - 森林整備の人材を育成し担い手を確保する
 - 森林整備の人材を育成し担い手を確保する
 - 臭いや煙の周辺への拡散を防止する
 - 無回答
- (n=3064)

2. 事業者アンケート調査結果

2. 1 回答事業者の概要

(1) 業種・従業員数・資本金

- 業種は、「製造業」が32.9%と最も高く、次いで「医療・福祉」が12.9%となっている。
- 従業員数は、「51~100人」が21.4%と最も高く、次いで「1~10人」が20.0%となっている。
- 資本金は、「1千万円以下」「10億円超」が25.7%と最も高く、次いで「1千万円超~5千万円以下」が24.3%となっている。

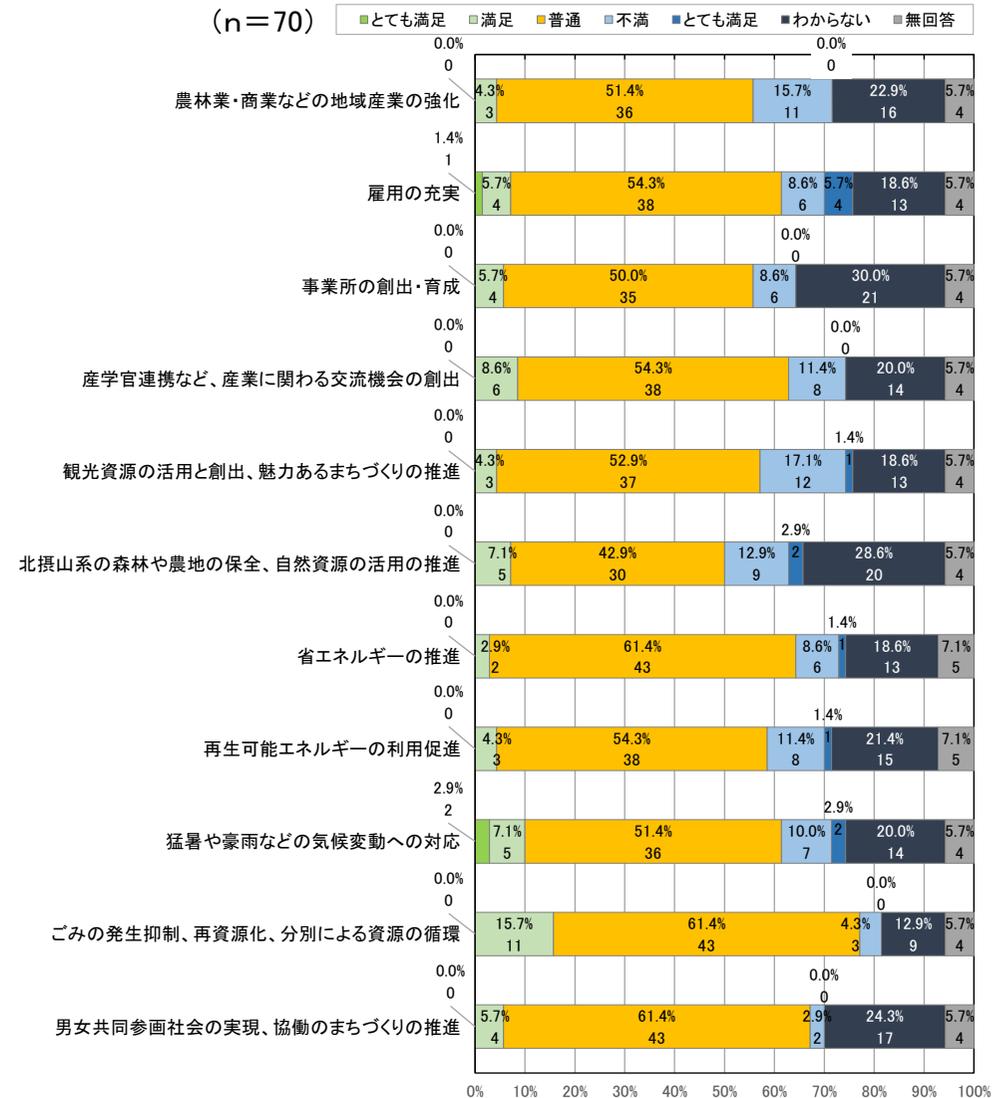


2. 2 茨木市の現状への満足度・重要度

(1) 現状への満足度

- 現状への満足度は、「ごみの発生抑制、再資源化、分別による資源の循環」が最も高く、次いで「猛暑や豪雨などの気候変動への対応」となっている。
- 地球温暖化に関する項目「省エネルギーの推進」「再生可能エネルギーの利用促進」の満足度は他の項目よりも低く、「猛暑や豪雨などの気候変動への対応」は2番目に高くなっている。

【現状への満足度】

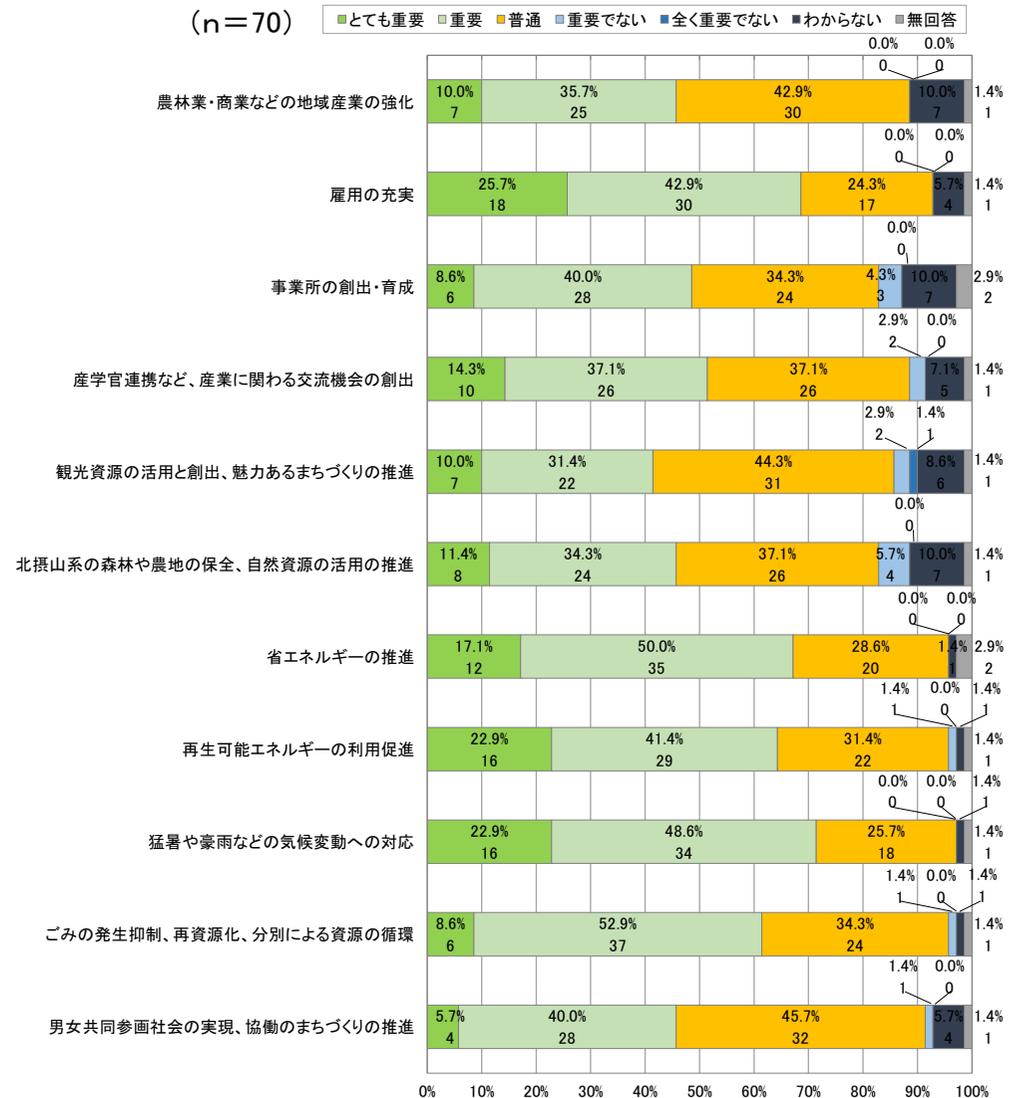


2. 2 茨木市の現状の満足度・重要度

(2) 現状の重要度

- 現状の重要度は、「猛暑や豪雨などの気候変動への対応」が最も高く、次いで「雇用の充実」となっている。
- 地球温暖化に関する項目「省エネルギーの推進」「再生可能エネルギーの利用促進」「猛暑や豪雨などの気候変動への対応」の重要度は、他の項目と比べて比較的高くなっている。

【現状の重要度】



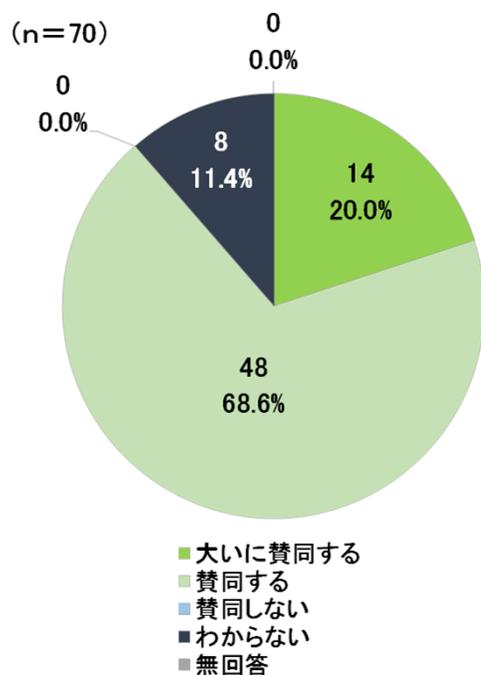
2. 3 地球温暖化への考え

(1) 地球温暖化対策の目標への賛同

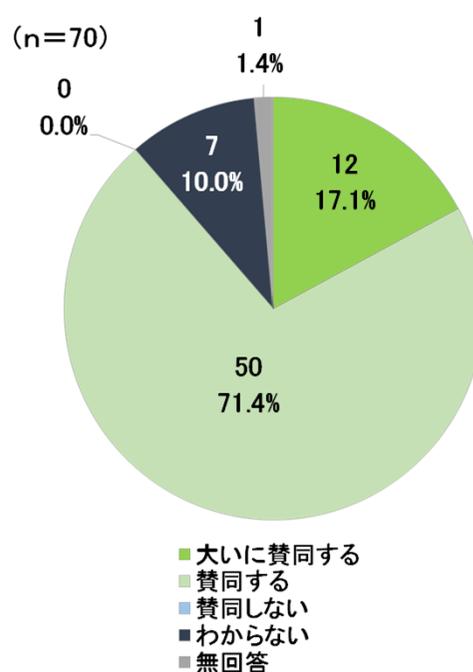
- 地球温暖化対応の目標は、どの項目も約75%以上が「大いに賛同する」「賛同する」となっている。

【地球温暖化対策の目標への賛同】

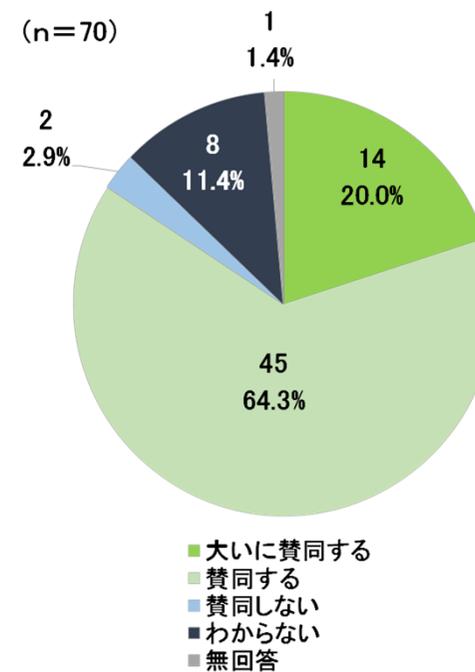
「2050年までに、温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする（2050年カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指す）。」ということを宣言しています。



「2030年度において、温室効果ガスを2013年度から46%削減することを目指す。さらに、50%削減に向け、挑戦を続けていく。」ということを目指しています。



「電力において、再生可能エネルギーが占める割合を、現状（2019年度）の18%程度に対して、2030年度に36～38%程度を見込む。」という見通しを示しています。



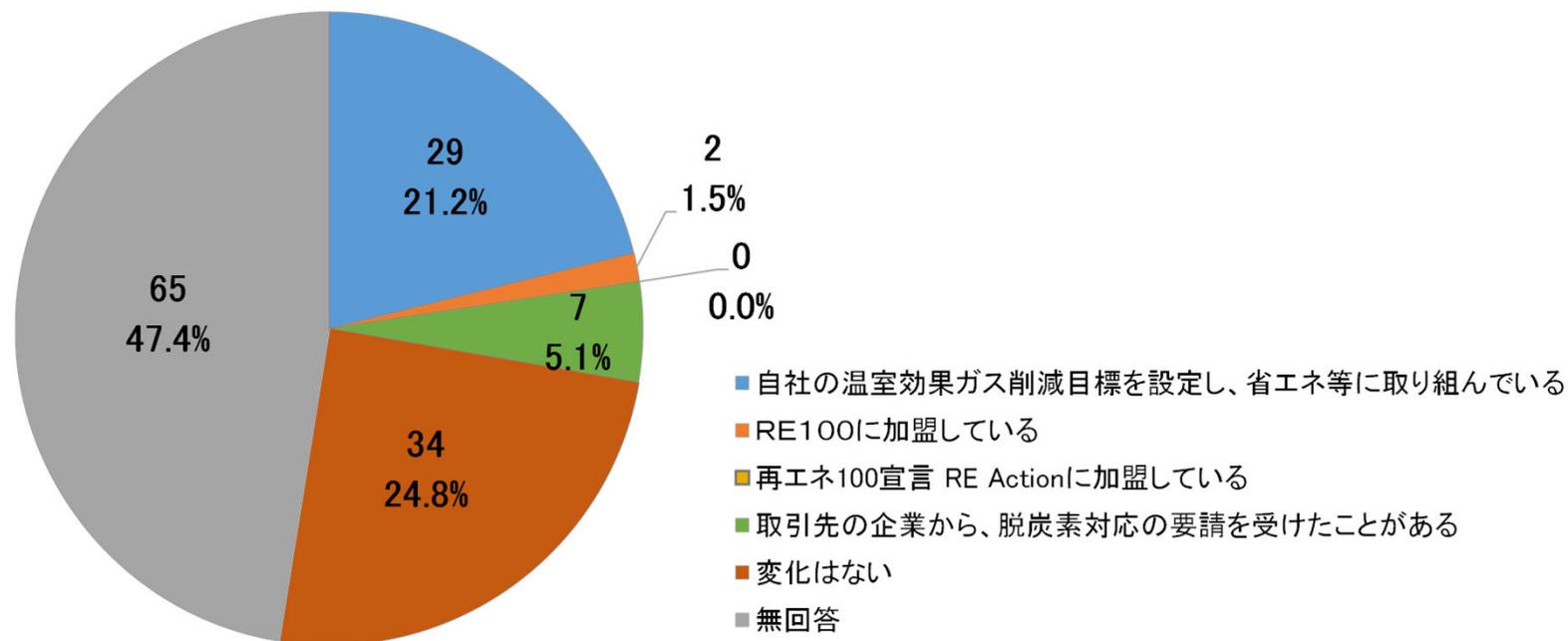
2. 3 地球温暖化への考え

(2) 地球温暖化の影響による操業環境の変化

- 地球温暖化の影響による操業環境の変化は、「変化はない」が24.8%と最も高く、次いで「自社の温室効果ガス削減目標を設定し、省エネ等に取り組んでいる」が21.2%となっている。

【地球温暖化の影響による操業環境の変化】

(n=137)

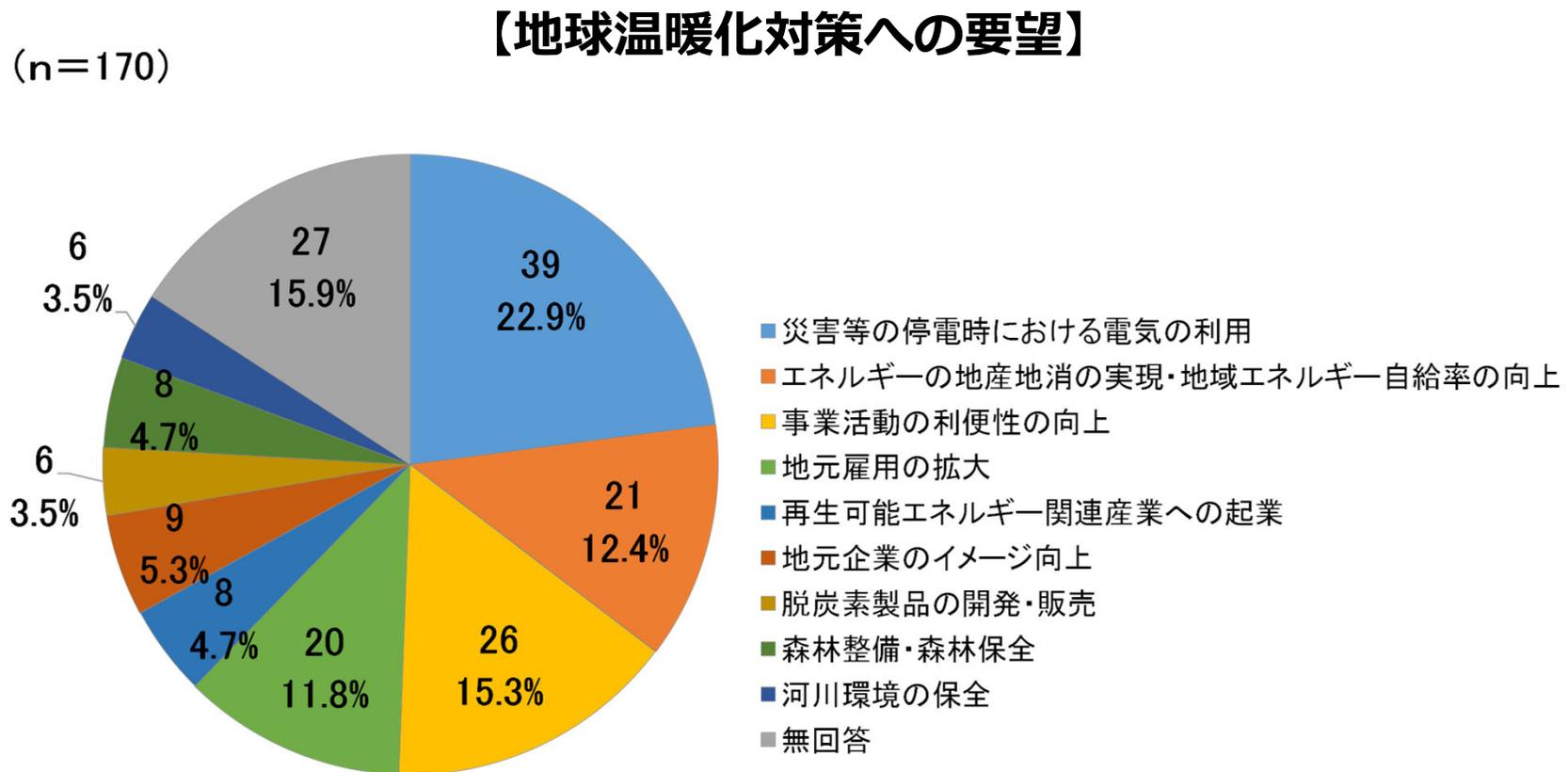


※ 複数回答可。

2. 3 地球温暖化への考え

(3) 地球温暖化対策への要望

- 地球温暖化対策への要望は、「災害等の停電時における電気利用」が22.9%と最も高く、次いで「事業活動の利便性の向上」が15.3%となっている。



※ 複数回答可。

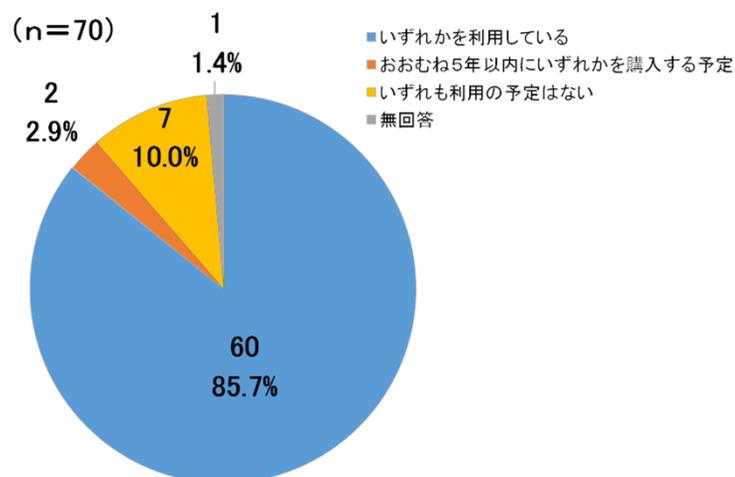
2. 4 省エネ対策や再エネ導入への考え

(1) 省エネ・再エネ設備の利用状況

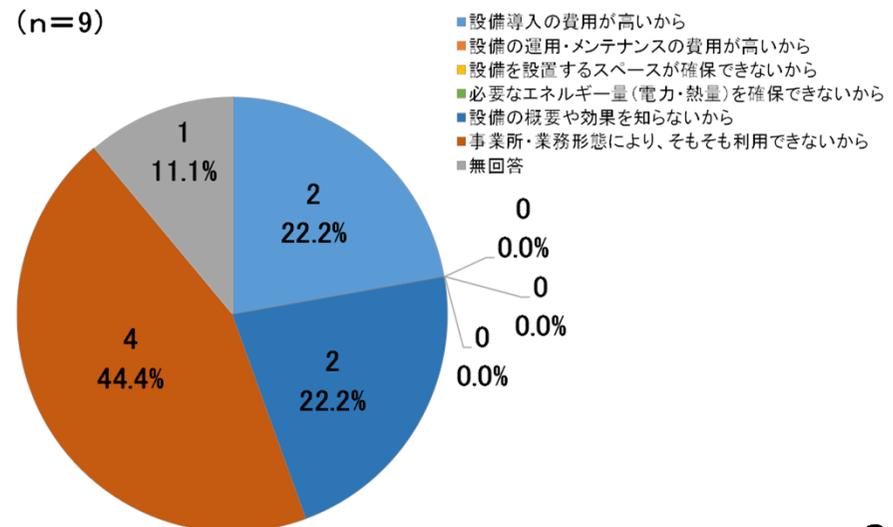
- 省エネ機器（LED照明、高効率空調など）の利用状況は、「いずれかを利用している」が85.7%となっている一方で、10.0%が「利用予定はない」となっている。
- 利用予定がない理由は、「そもそも利用できないから」が44.4%と最も高く、次いで「設備導入の費用が高いから」「設備の概要や効果を知らないから」が22.2%となっている。

① 省エネ機器（LED照明、高効率空調（パッケージエアコン、リングユニット、ガスヒートポンプ、吸収式冷凍機など）

【利用状況】



【利用予定がない理由】



※ 理由は、複数回答可。

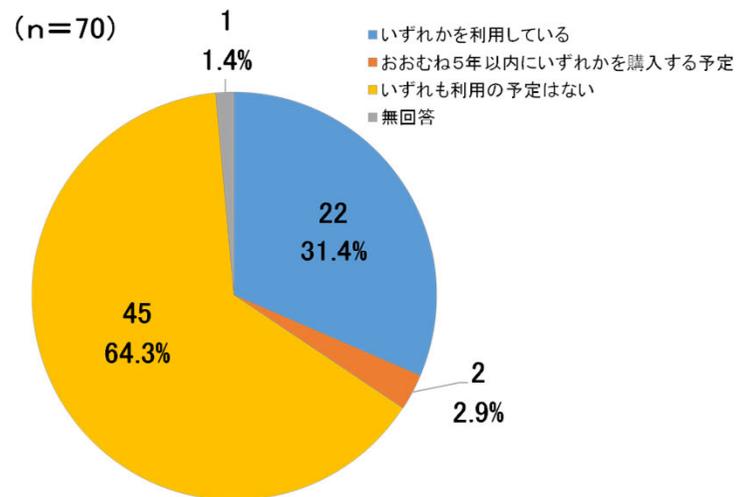
2. 4 省エネ対策や再エネ導入への考え

(1) 省エネ・再エネ設備の利用状況

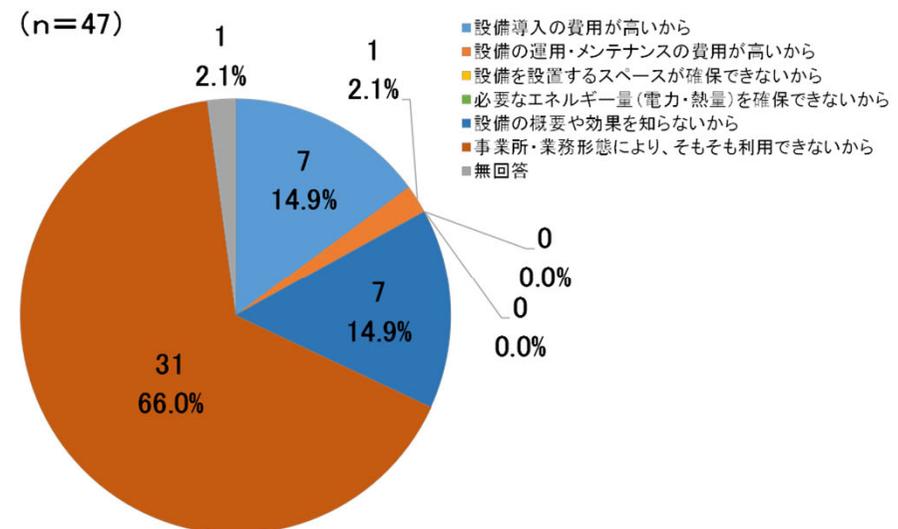
- 省エネ機器（産業用ヒートポンプ、高性能ボイラー）の利用状況は、「いずれかを利用している」が31.4%となっている一方で、64.3%が「利用予定はない」となっている。
- 利用予定がない理由は、「そもそも利用できないから」が66.0%と最も高く、次いで「設備導入の費用が高いから」「設備の概要や効果を知らないから」が14.9%となっている。

②省エネ機器（産業用ヒートポンプ、高性能ボイラー）

【利用状況】



【利用予定がない理由】



※ 理由は、複数回答可。

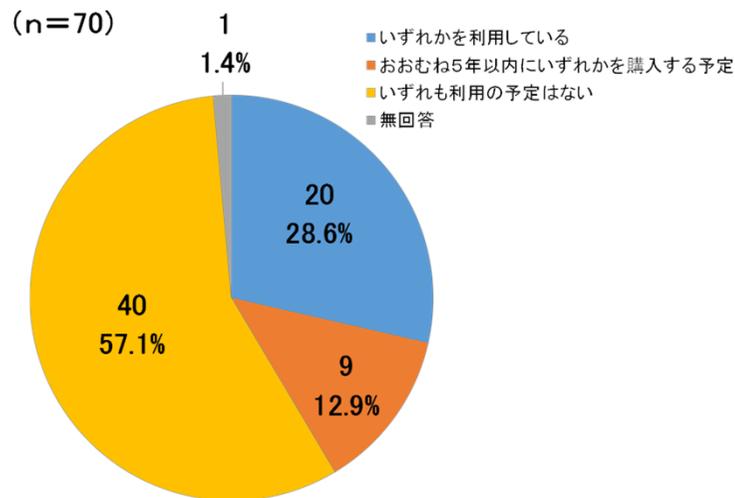
2. 4 省エネ対策や再エネ導入への考え

(1) 省エネ・再エネ設備の利用状況

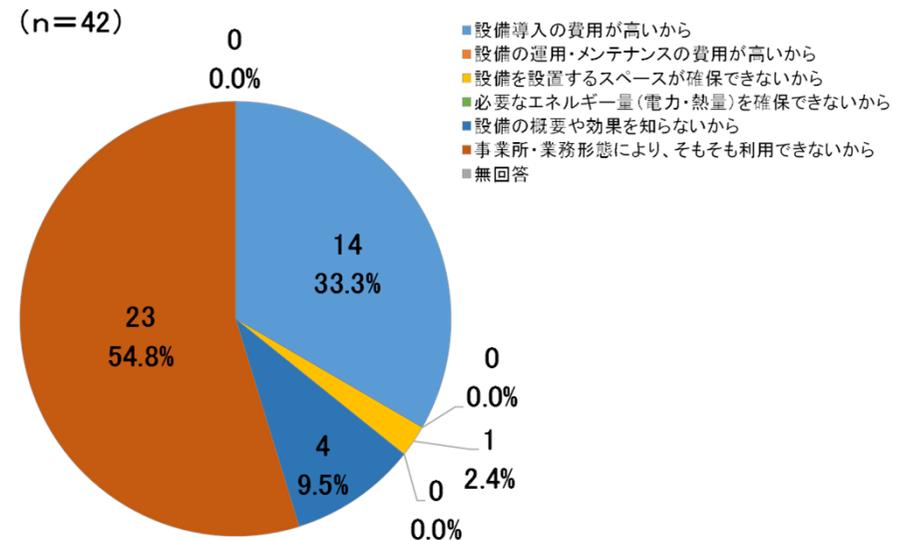
- 工場・事業所の断熱化（屋根遮熱塗装、断熱窓など）の利用状況は、「いずれかを利用している」が28.6%となっている一方で、57.1%が「利用予定はない」となっている。
- 利用予定がない理由は、「そもそも利用できないから」が54.8%と最も高く、次いで「設備導入の費用が高いから」が33.3%となっている。

③工場・事業所の断熱化（屋根遮熱塗装、断熱窓など）

【利用状況】



【利用予定がない理由】



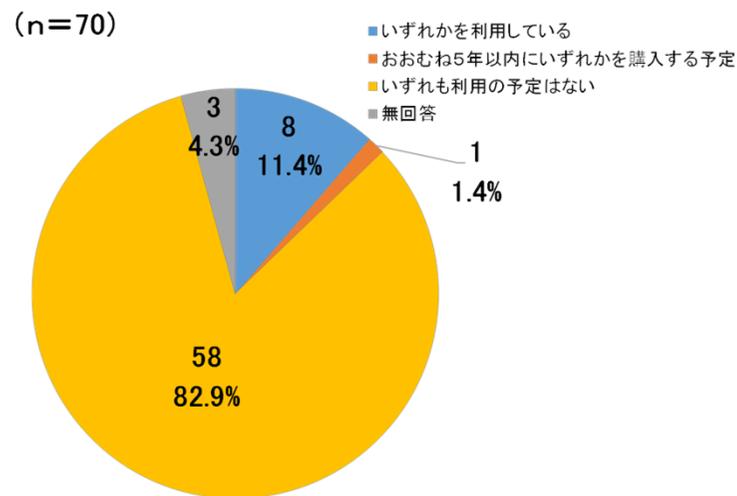
※ 理由は、複数回答可。

2. 4 省エネ対策や再エネ導入への考え

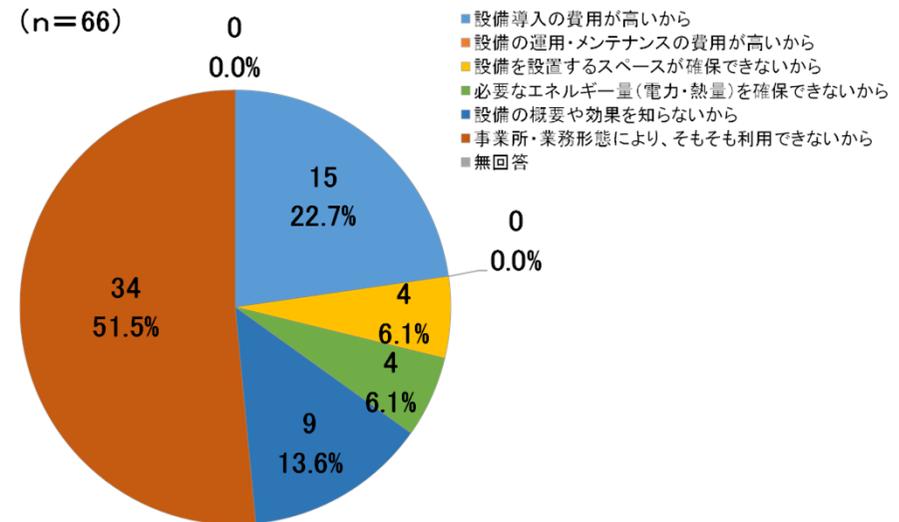
(1) 省エネ・再エネ設備の利用状況

- コージェネレーション（熱電併給）設備の利用状況は、「いずれかを利用して」が11.4%となっている一方で、82.9%が「利用予定はない」となっている。
- 利用予定がない理由は、「そもそも利用できないから」が51.5%と最も高く、次いで「設備導入の費用が高いから」が22.7%となっている。

④ コージェネレーション（熱電併給）設備 【利用状況】



【利用予定がない理由】



※ 理由は、複数回答可。

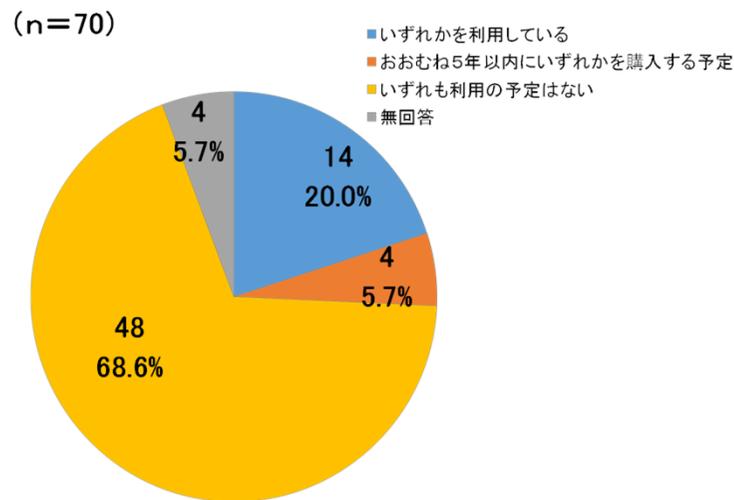
2. 4 省エネ対策や再エネ導入への考え

(1) 省エネ・再エネ設備の利用状況

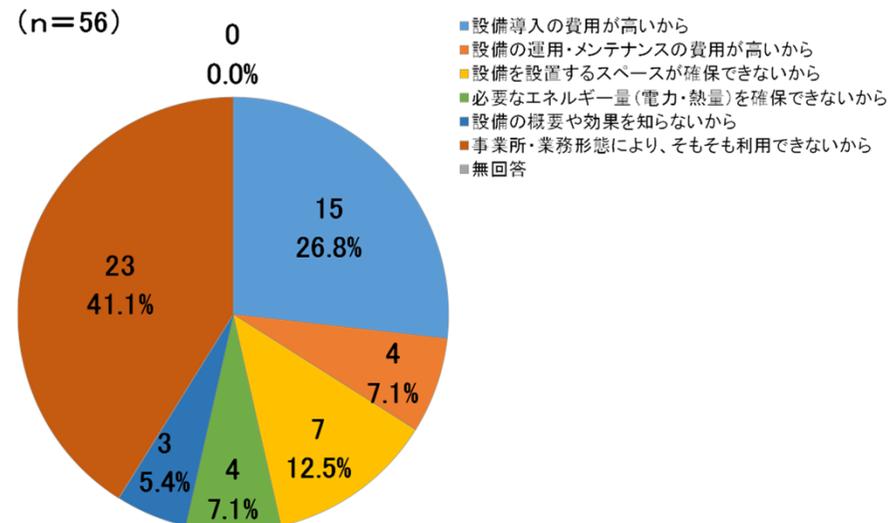
- 太陽光発電システムの利用状況は、「いずれかを利用している」が20.0%となっている一方で、68.6%が「利用予定はない」となっている。
- 利用予定がない理由は、「そもそも利用できないから」が41.1%と最も高く、次いで「設備導入の費用が高いから」が26.8%となっている。

⑤太陽光発電システム

【利用状況】



【利用予定がない理由】



※ 理由は、複数回答可。

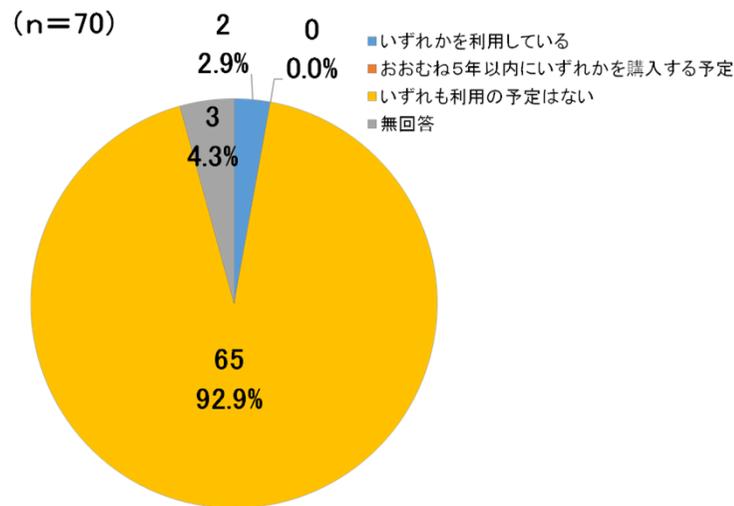
2. 4 省エネ対策や再エネ導入への考え

(1) 省エネ・再エネ設備の利用状況

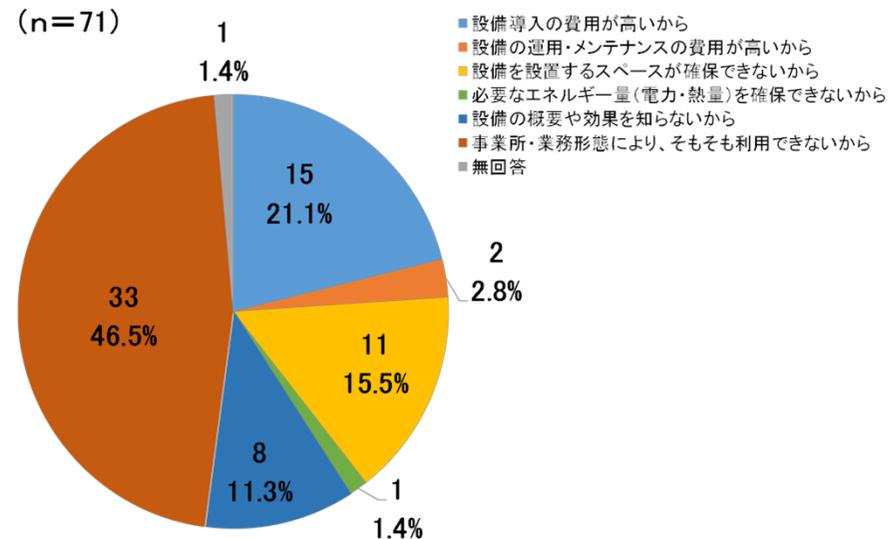
- 太陽熱温水器の利用状況は、「いずれかを利用している」が2.9%となっている一方で、92.9%が「利用予定はない」となっている。
- 利用予定がない理由は、「そもそも利用できないから」が46.5%と最も高く、次いで「設備導入の費用が高いから」が21.1%となっている。

⑥太陽熱温水器

【利用状況】



【利用予定がない理由】



※ 理由は、複数回答可。

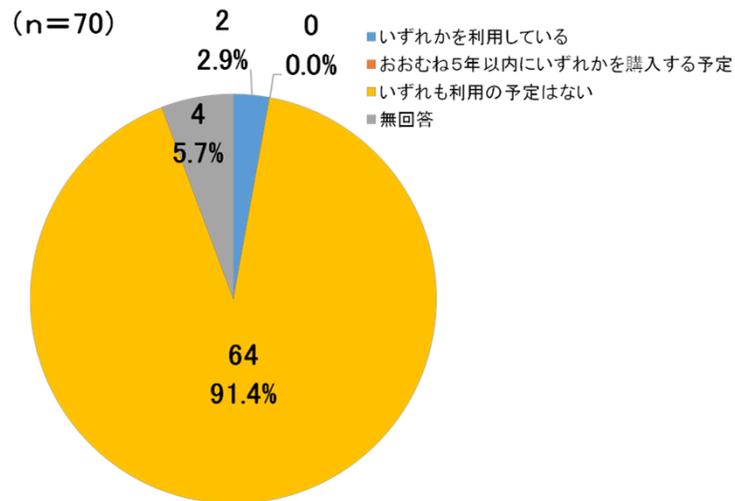
2. 4 省エネ対策や再エネ導入への考え

(1) 省エネ・再エネ設備の利用状況

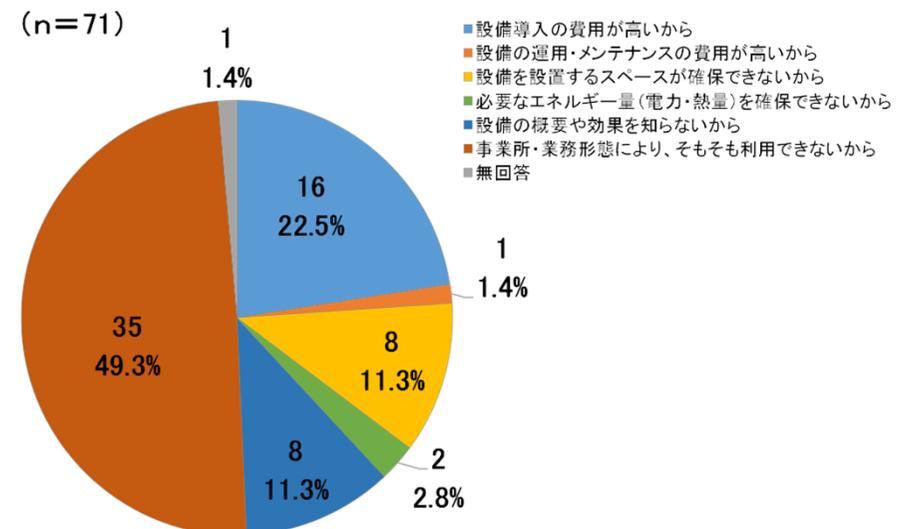
- 温度差熱利用ヒートポンプ（下水熱、地中熱など）の利用状況は、「いずれかを利用している」が2.9%となっている一方で、91.4%が「利用予定はない」となっている。
- 利用予定がない理由は、「そもそも利用できないから」が49.3%と最も高く、次いで「設備導入の費用が高いから」が22.5%となっている。

⑦温度差熱利用ヒートポンプ（下水熱、地中熱など）

【利用状況】



【利用予定がない理由】



※ 理由は、複数回答可。

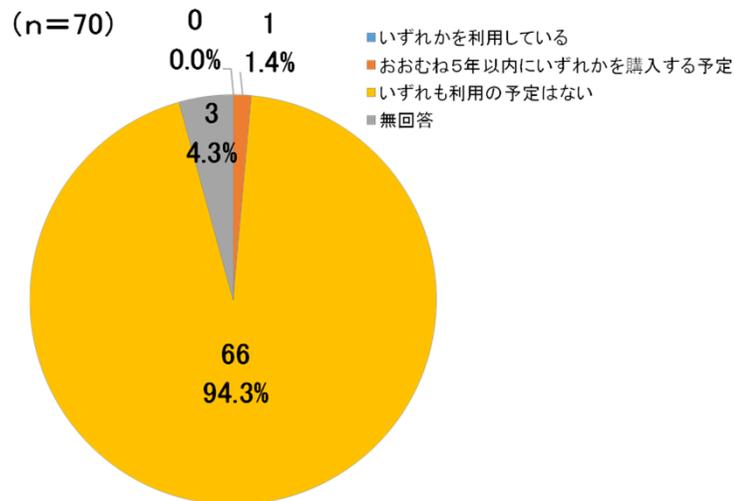
2. 4 省エネ対策や再エネ導入への考え

(1) 省エネ・再エネ設備の利用状況

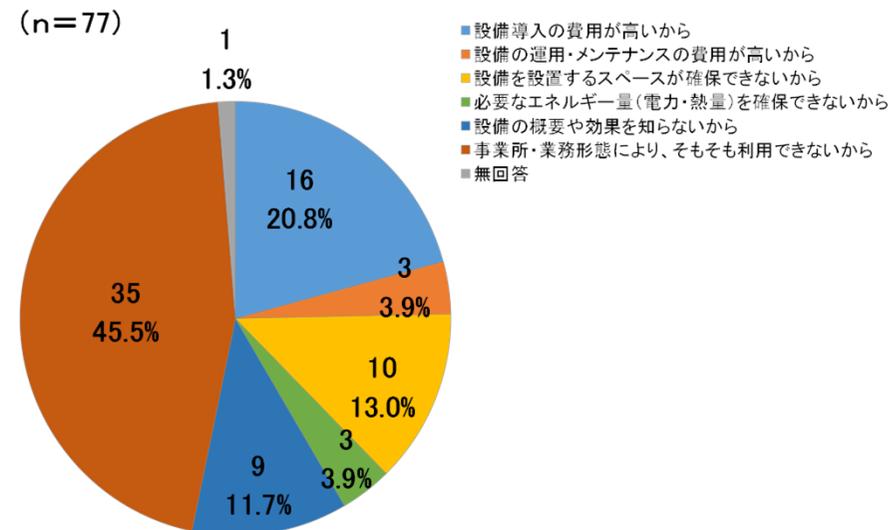
- バイオマスボイラーの利用状況は、「おおむね5年以内にいずれかを購入する予定」が1.4%となっている一方で、94.3%が「利用予定はない」となっている。
- 利用予定がない理由は、「そもそも利用できないから」が45.5%と最も高く、次いで「設備導入の費用が高いから」が20.8%となっている。

⑧ バイオマスボイラー

【利用状況】



【利用予定がない理由】



※ 理由は、複数回答可。

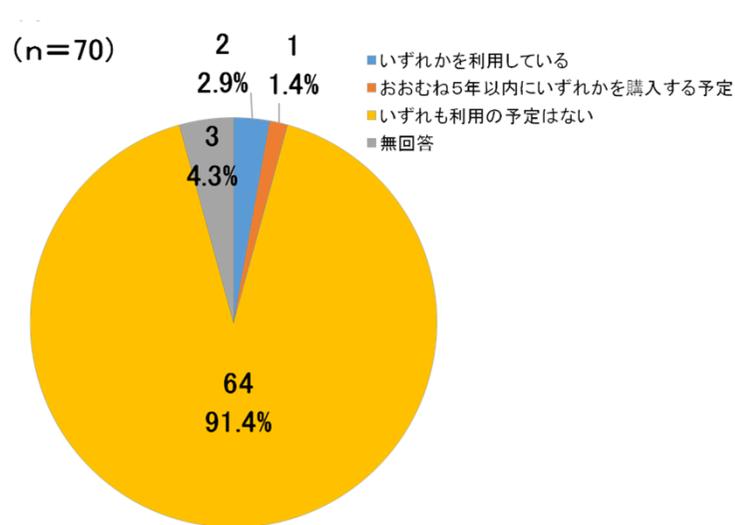
2. 4 省エネ対策や再エネ導入への考え

(1) 省エネ・再エネ設備の利用状況

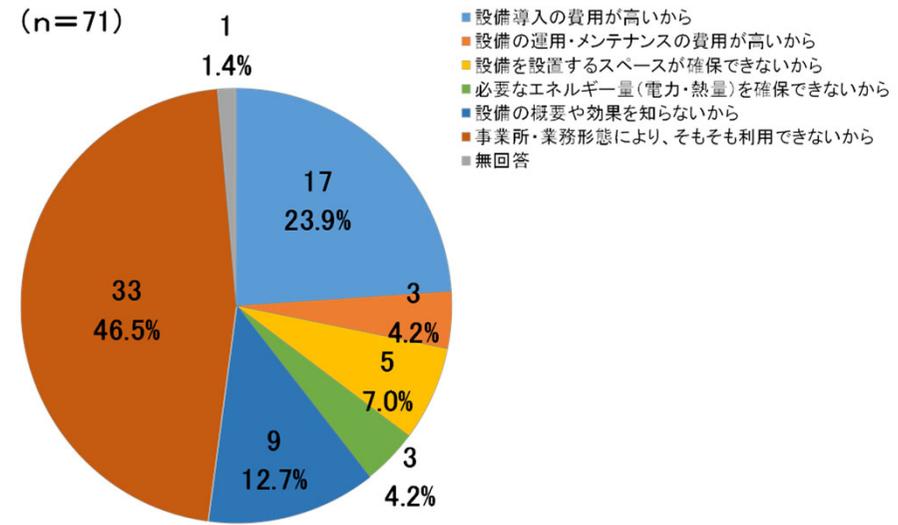
- 排熱利用等エネルギー回収システムの利用状況は、「いずれかを利用している」が2.9%となっている一方で、91.4%が「利用予定はない」となっている。
- 利用予定がない理由は、「そもそも利用できないから」が46.5%と最も高く、次いで「設備導入の費用が高いから」が23.9%となっている。

⑨排熱利用等エネルギー回収システム

【利用状況】



【利用予定がない理由】



※ 理由は、複数回答可。

2. 4 省エネ対策や再エネ導入への考え

(1) 省エネ・再エネ設備の利用状況

- エネルギー自動監視・調整システムの利用状況は、「いずれかを利用して」が18.6%となっている一方で、68.6%が「利用予定はない」となっている。
- 利用予定がない理由は、「そもそも利用できないから」が42.3%と最も高く、次いで「設備導入の費用が高いから」が32.7%となっている。

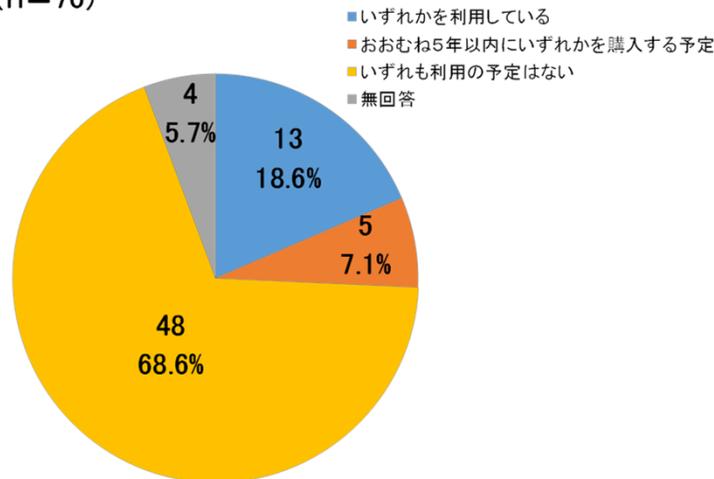
⑩ エネルギー自動監視・調整システム

(デマンドコントロール、FEMS、BEMSなど)

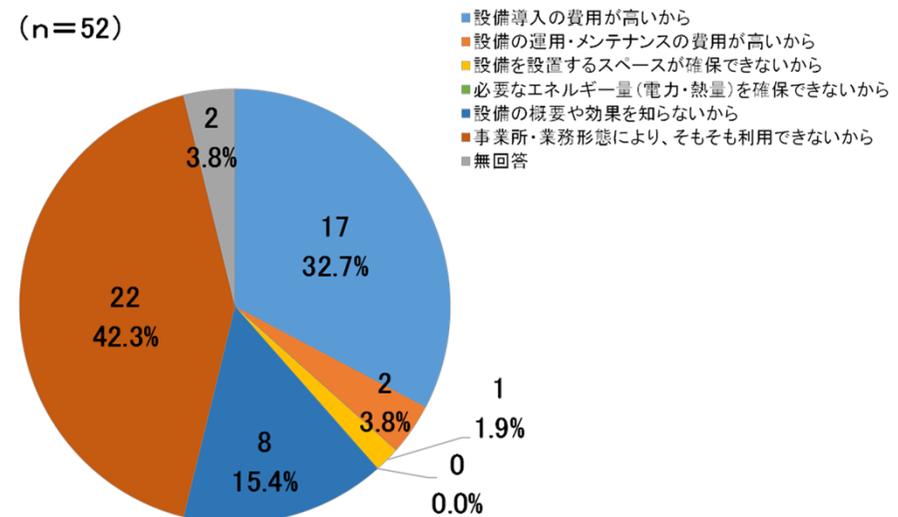
【利用状況】

【利用予定がない理由】

(n=70)



(n=52)



※ 理由は、複数回答可。

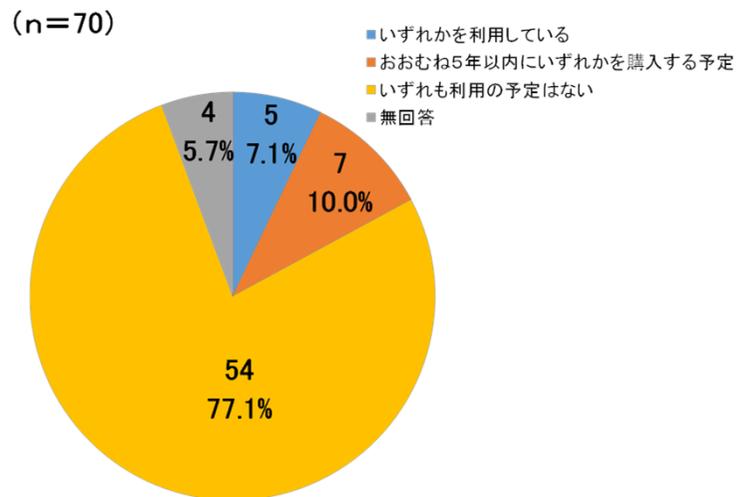
2. 4 省エネ対策や再エネ導入への考え

(1) 省エネ・再エネ設備の利用状況

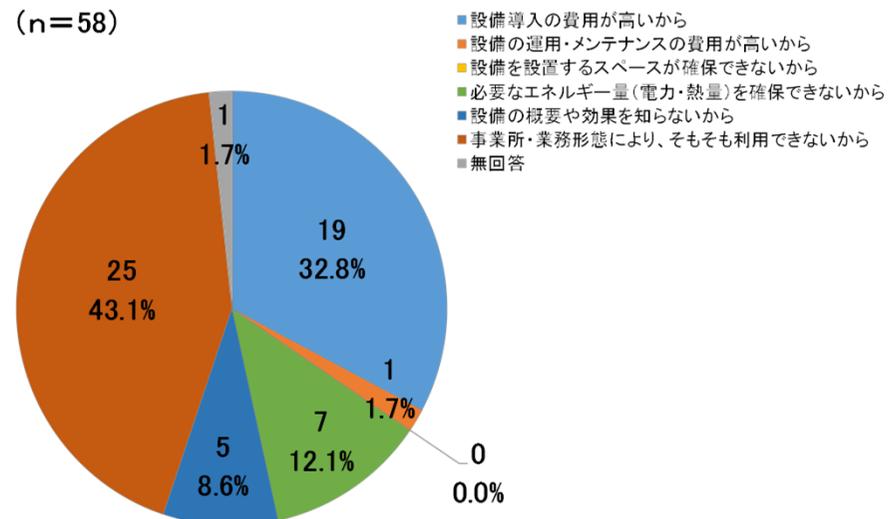
- 100%再エネ電気への切替の利用状況は、「いずれかを利用している」が7.1%となっている一方で、77.1%が「利用予定はない」となっている。
- 利用予定がない理由は、「そもそも利用できないから」が43.1%と最も高く、次いで「設備導入の費用が高いから」が32.8%となっている。

⑪ 100%再エネ電気への切替

【利用状況】



【利用予定がない理由】



※ 理由は、複数回答可。

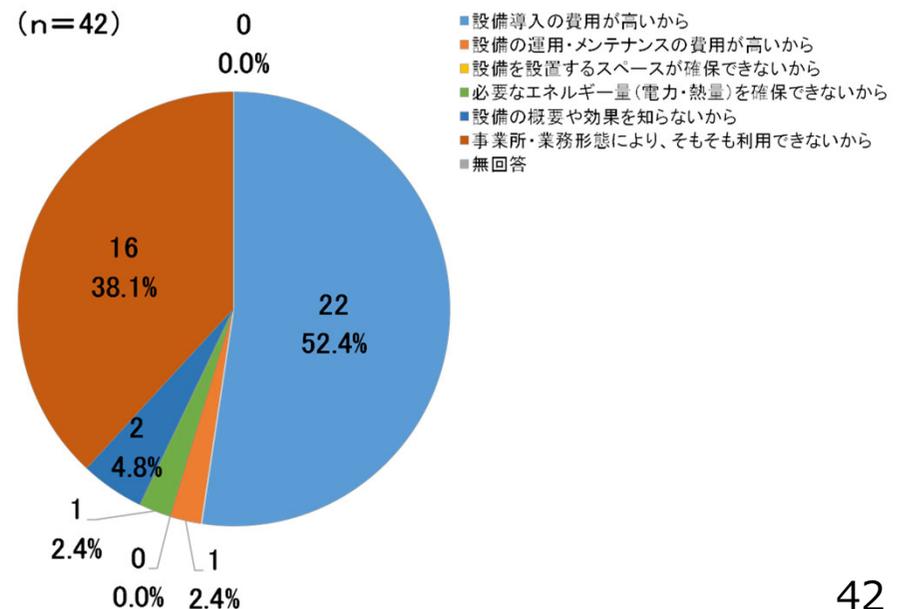
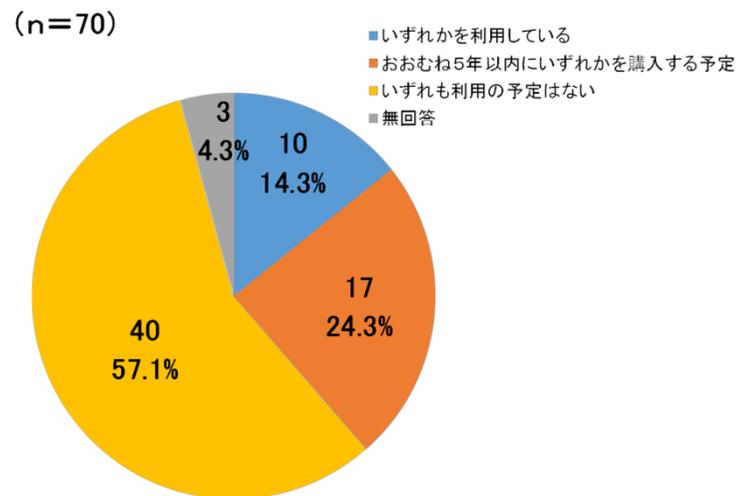
2. 4 省エネ対策や再エネ導入への考え

(1) 省エネ・再エネ設備の利用状況

- 電気自動車の利用状況は、「いずれかを利用している」が14.3%となっている一方で、57.1%が「利用予定はない」となっている。
- 利用予定がない理由は、「設備導入の費用が高いから」が52.4%と最も高く、次いで「そもそも利用できないから」が38.1%となっている。

⑫電気自動車

(プラグインハイブリッド自動車、燃料電池自動車を含む) 【利用状況】



※ 理由は、複数回答可。

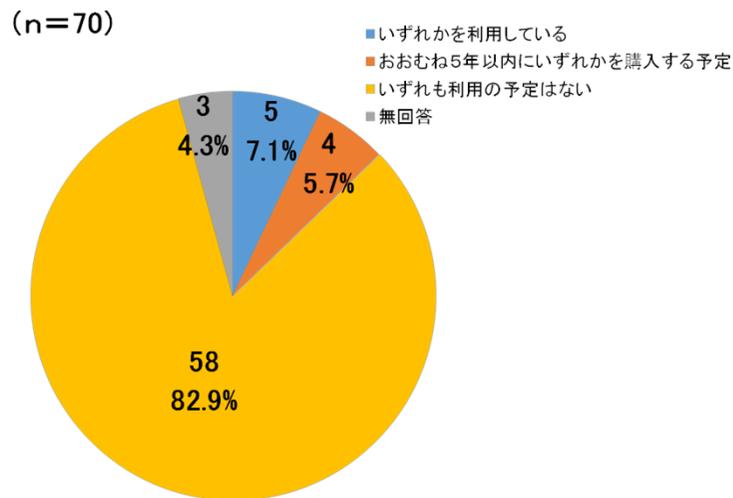
2. 4 省エネ対策や再エネ導入への考え

(1) 省エネ・再エネ設備の利用状況

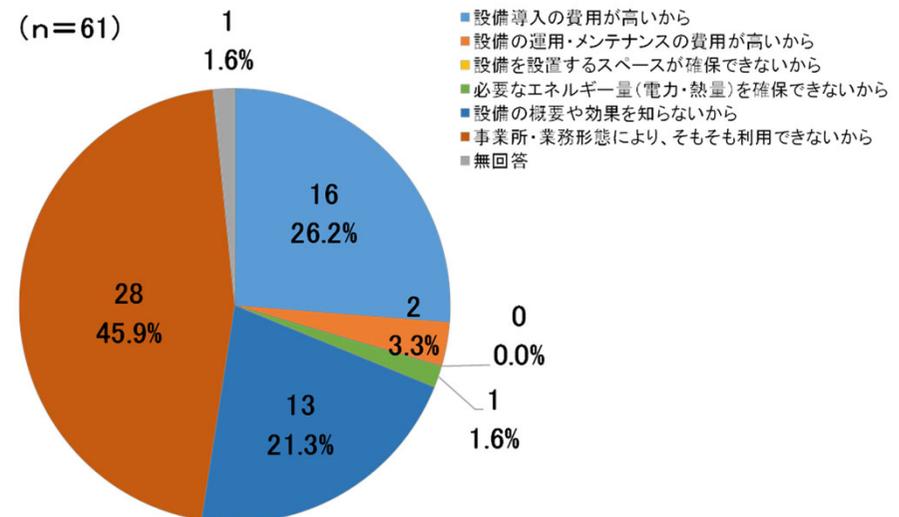
- 車載用デジタルタコメーターの利用状況は、「いずれかを利用している」が7.1%となっている一方で、82.9%が「利用予定はない」となっている。
- 利用予定がない理由は、「そもそも利用できないから」が45.9%と最も高く、次いで「設備導入の費用が高いから」が26.2%となっている。

⑬ 車載用デジタルタコメーター（デジタル式運行記録計）

【利用状況】



【利用予定がない理由】



※ 理由は、複数回答可。

2. 4 省エネ対策や再エネ導入への考え

(2) 省エネ・再エネ設備の将来の購入予定

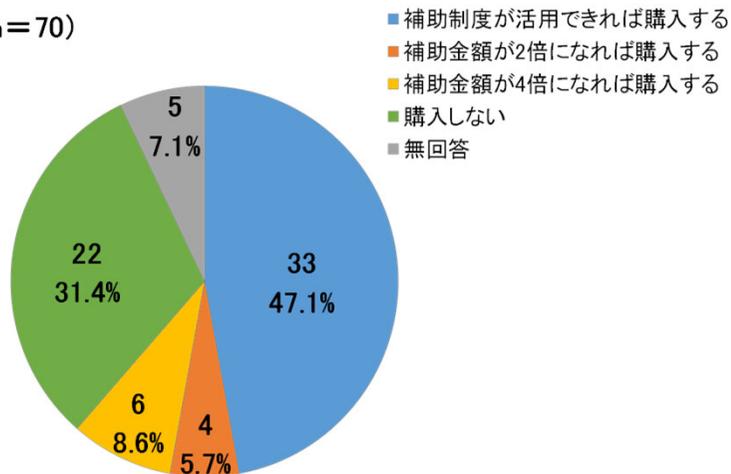
- 省エネ機器の将来の購入予定は、61.4%が「補助制度を活用して／拡充（2倍・4倍）されれば購入する」となっている。
- 工場・事業所の断熱化の将来の購入予定は、45.7%が「補助制度を活用して／拡充（2倍・4倍）されれば購入する」となっている。

【将来の購入予定】

○省エネ機器

（LED照明・高効率空調など）

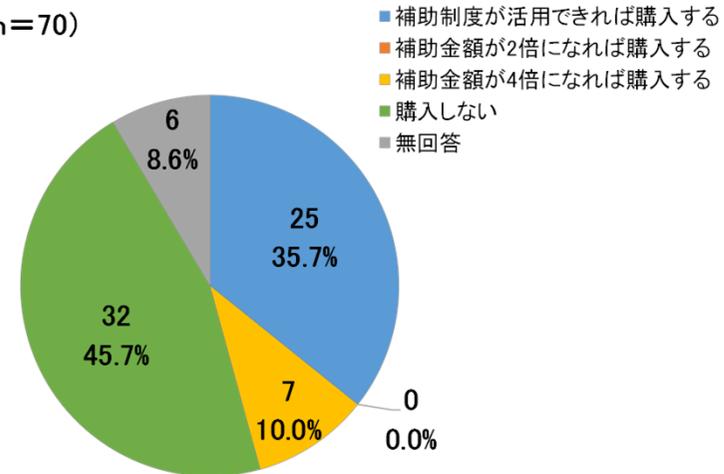
(n=70)



○工場・事業所の断熱化

（屋根遮熱塗装、断熱窓など）

(n=70)



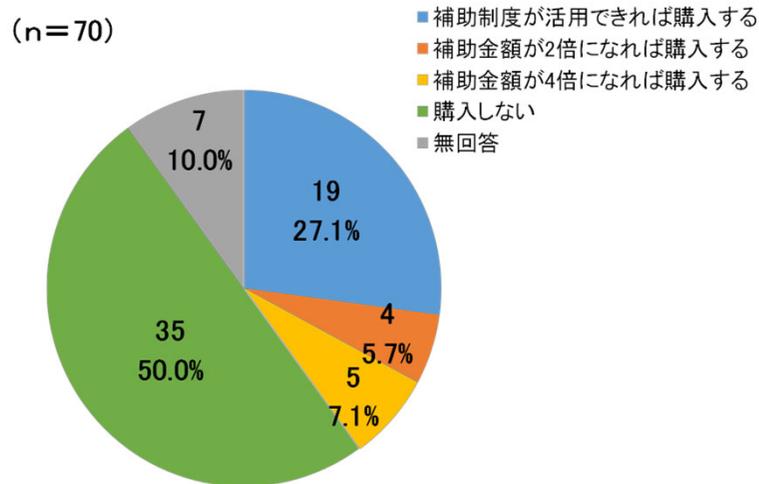
2. 4 省エネ対策や再エネ導入への考え

(2) 省エネ・再エネ設備の将来の購入予定

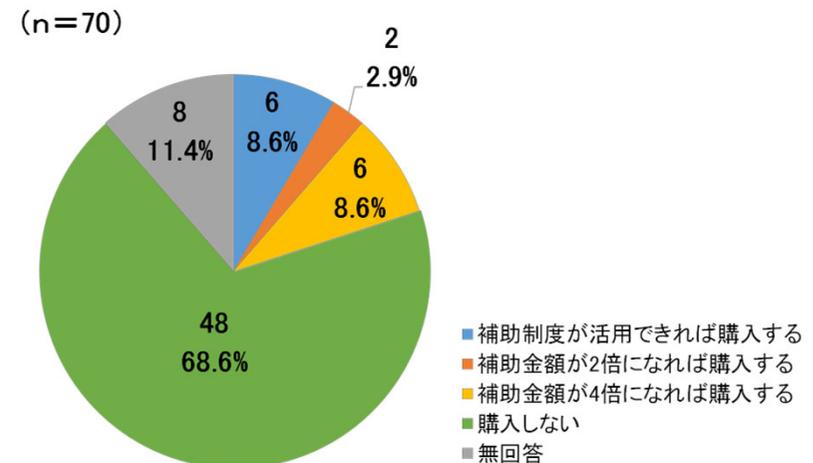
- 太陽光発電システムの将来の購入予定は、39.9%が「補助制度を活用して／拡充（2倍・4倍）されれば購入する」となっている。
- 温度差熱利用設備の将来の購入予定は、20.1%が「補助制度を活用して／拡充（2倍・4倍）されれば購入する」となっている。

【将来の購入予定】

○太陽光発電システム



○温度差熱利用設備 (下水熱、地中熱など)



2. 4 省エネ対策や再エネ導入への考え

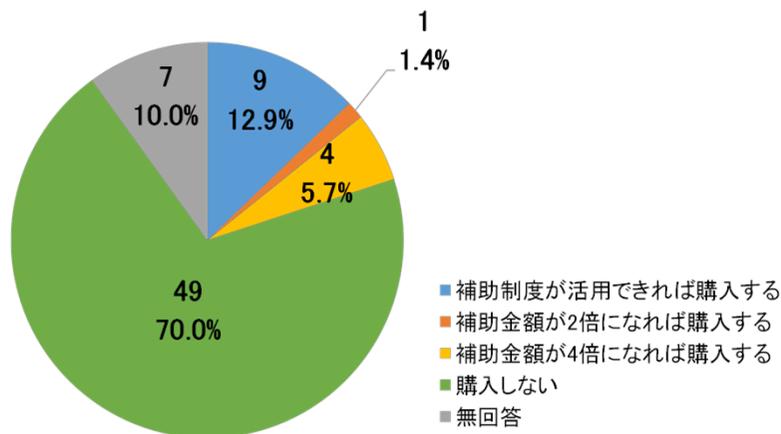
(2) 省エネ・再エネ設備の将来の購入予定

- バイオマス発電設備の将来の購入予定は、20.0%が「補助制度を活用して／拡充（2倍・4倍）されれば購入する」となっている。
- 電気自動車等の将来の購入予定は、52.9%が「補助制度を活用して／拡充（2倍・4倍）されれば購入する」となっている。

【将来の購入予定】

○バイオマス発電設備

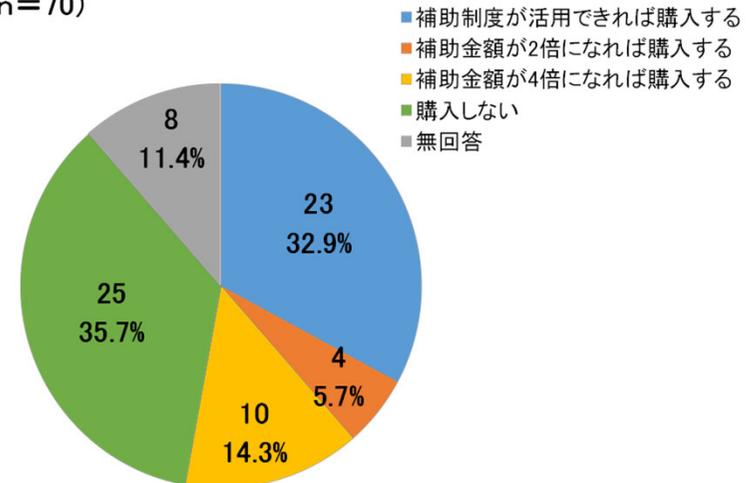
(n=70)



○電気自動車等

(プラグインハイブリッド自動車、燃料電池自動車を含む)

(n=70)

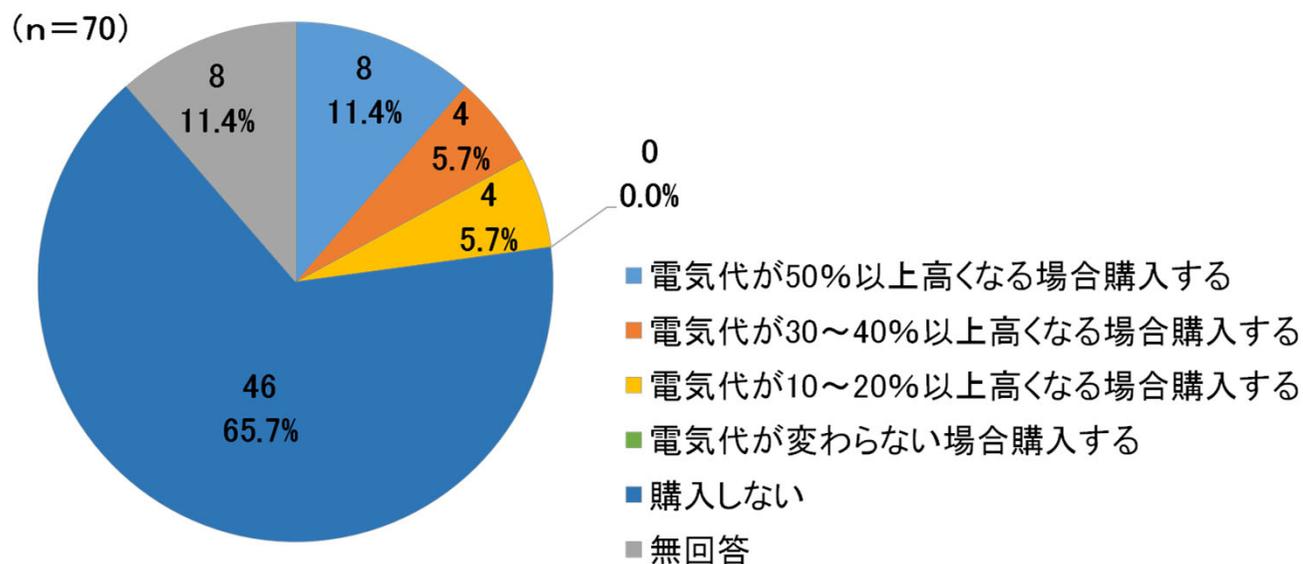


2. 4 省エネ対策や再エネ導入への考え

(3) 100%再生可能エネルギー電気への切替

- 100%再生可能エネルギー電気への切替については、22.8%が「価格が10%以上高くなる場合でも購入する」となっている。

【100%再生可能エネルギー電気への切替】

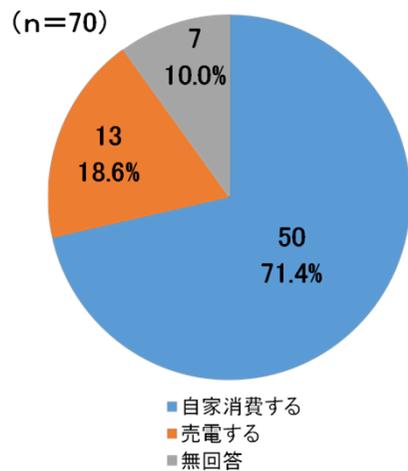


2. 4 省エネ対策や再エネ導入への考え

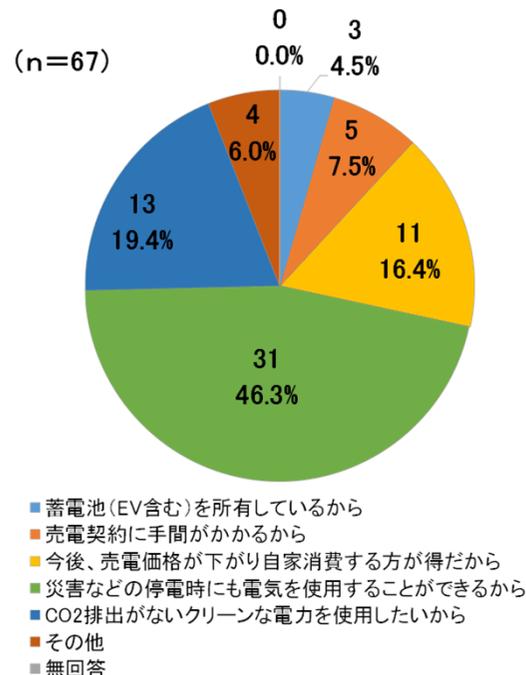
(4) 事業所の太陽光発電で発電した電気の利用方法

- 事業所の太陽光発電で発電した電気は、「自家消費する」が71.4%、「売電する」が18.6%となっている。
- 自家消費する理由は、「災害などの停電時にも電気を使用することができるから」が46.3%と最も高い。
- 売電する理由は、「蓄電池（EV含む）を所有していないから」「売電収入が欲しいから」が40.0%と最も高い。

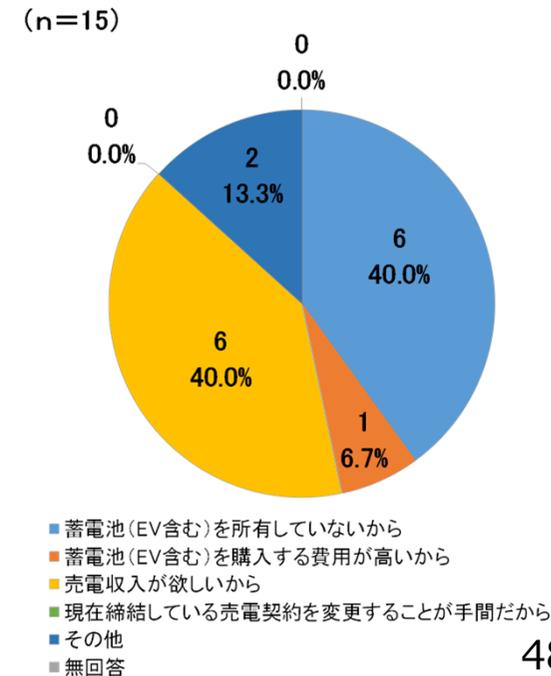
【事業所で発電した電気の利用方法】



【自家消費する理由】



【売電する理由】



※ 理由は、複数回答可。

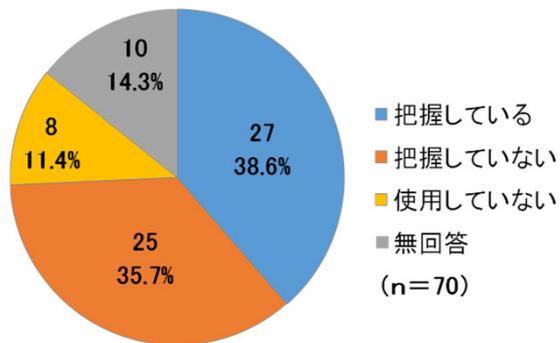
2. 5 設備・エネルギーの利用状況

(1) エネルギー・燃料の消費量

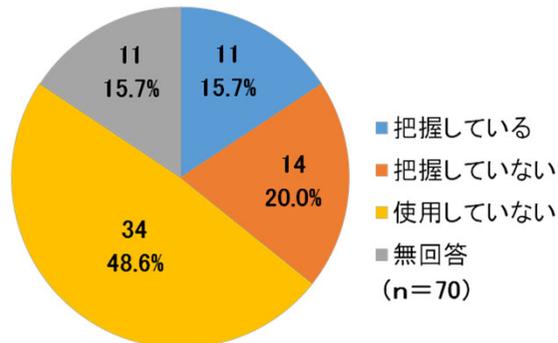
- エネルギー・燃料の消費量は、「把握している」が1.4～38.6%となっている。

【エネルギー・燃料の消費量】

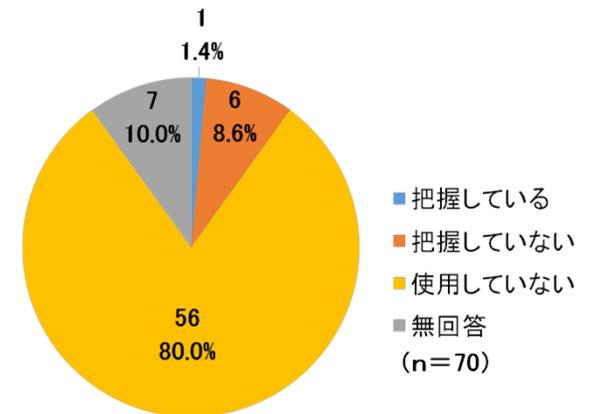
○電力
(再生可能エネルギー由来以外)



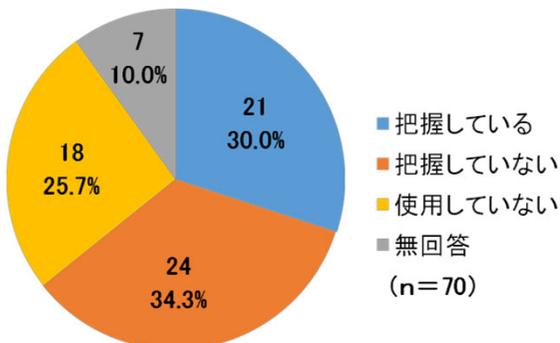
○電力 (再生可能エネルギー由来)



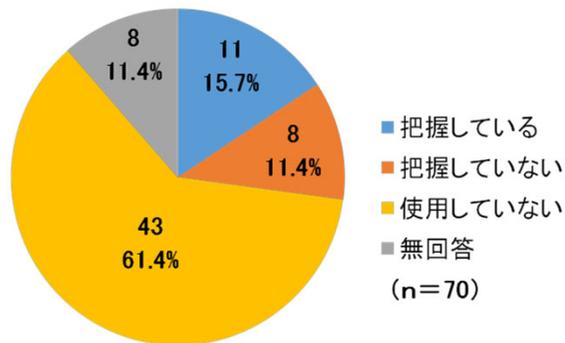
○石炭・石炭コークス



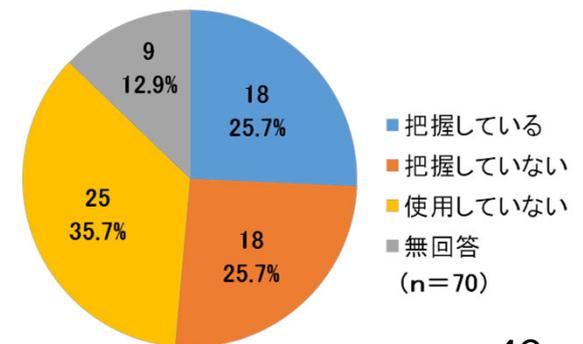
○石油製品
(ガソリン・灯油・軽油・重油・原油)



○石油ガス・LPガス



○都市ガス

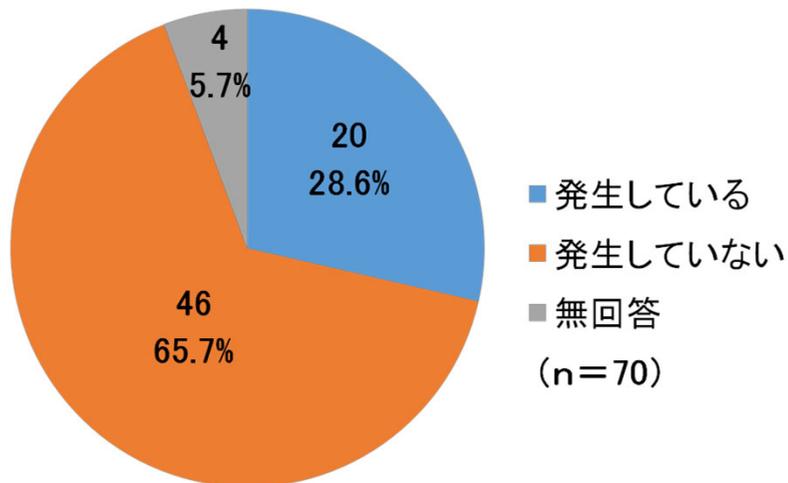


2. 5 設備・エネルギーの利用状況

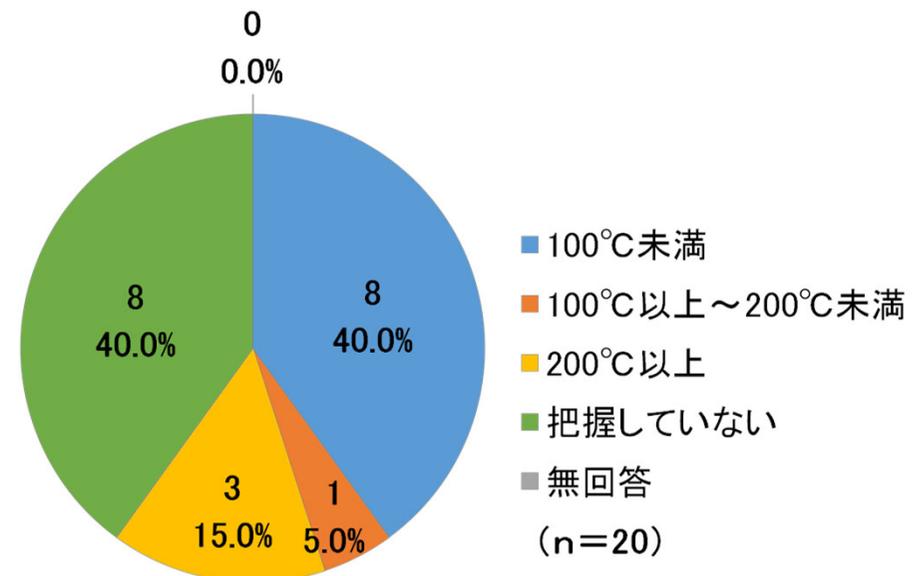
(2) 排ガス熱の発生

- 排ガス熱を発生している事業所は、28.6%となっている。
- 排ガス熱の温度帯は、「100℃未満」が40.0%と最も高く、次いで「200℃以上」が15.0%となっている。なお、40.0%は「把握していない」となっている。

【排ガスの発生】



【排ガスの温度帯】

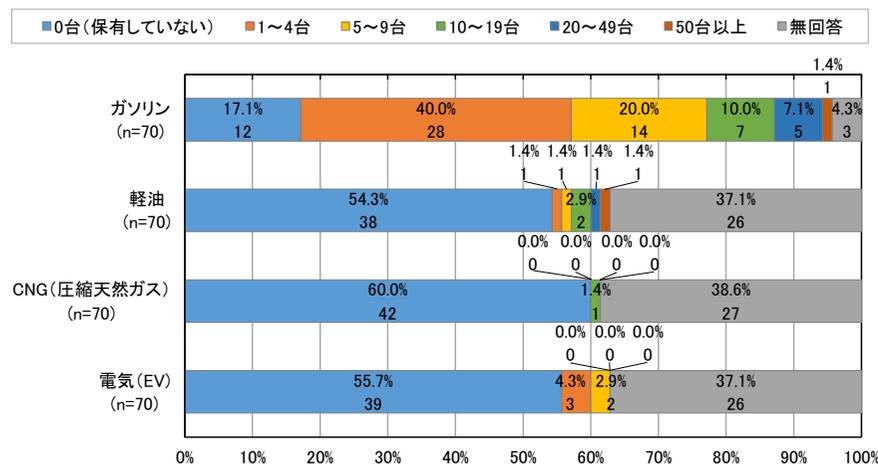


2. 5 設備・エネルギーの利用状況

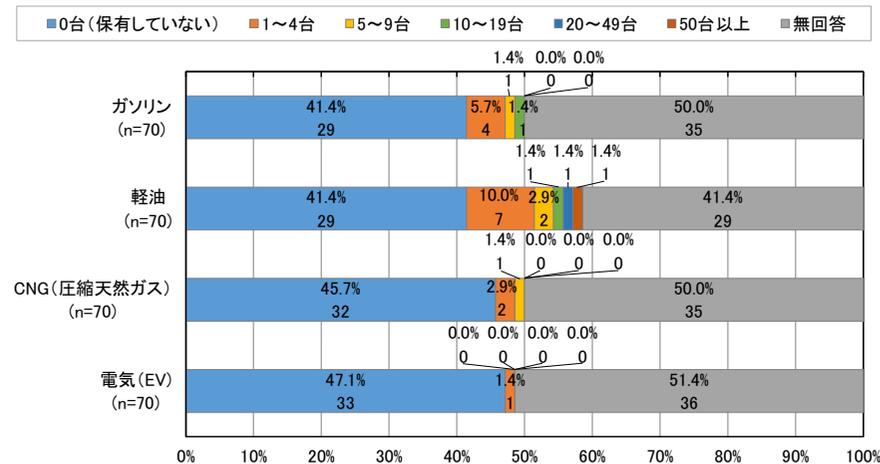
(3) 社用車（乗用車、トラック）

- 乗用車の保有状況は、1台以上を保有している事業所が、ガソリン車で78.5%、軽油車で8.5%、CNG車で1.4%、電気自動車で7.2%となっている。
- トラック（準中型）の保有状況は、1台以上を保有している事業所が、ガソリン車で8.5%、軽油車で17.1%、CNG車で4.3%、電気自動車で1.4%となっている。

【乗用車】



【トラック（準中型）】

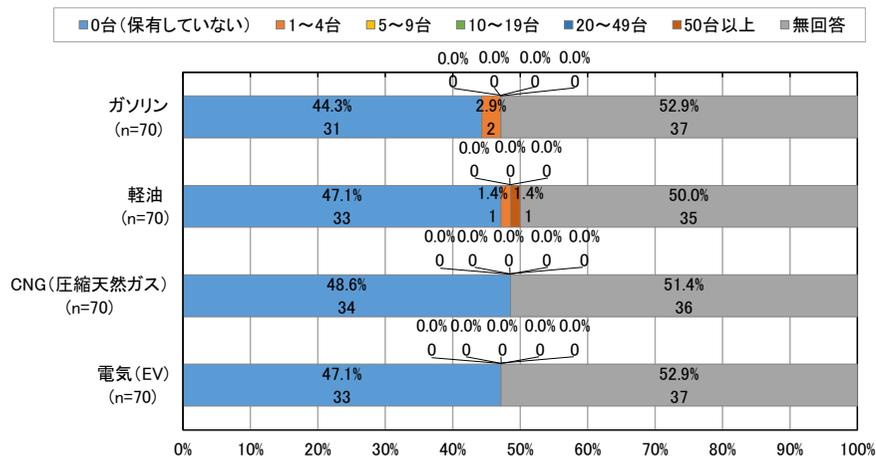


2. 5 設備・エネルギーの利用状況

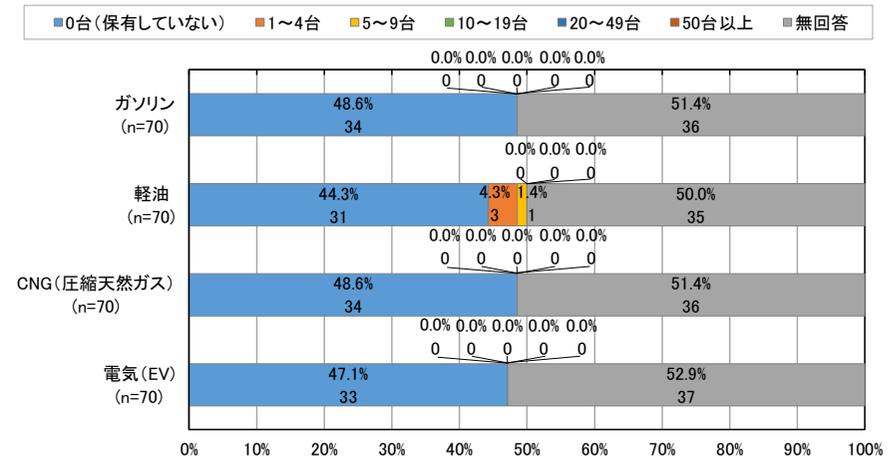
(3) 社用車（乗用車、トラック）

- トラック（中型）の保有状況は、1台以上を保有している事業所が、ガソリン車で2.9%、軽油車で2.8%であり、CNG車・電気自動車はなしとなっている。
- トラック（大型）の保有状況は、1台以上を保有している事業所が、軽油車で5.7%であり、ガソリン車・CNG車・電気自動車はなしとなっている。

【トラック（中型）】



【トラック（大型）】

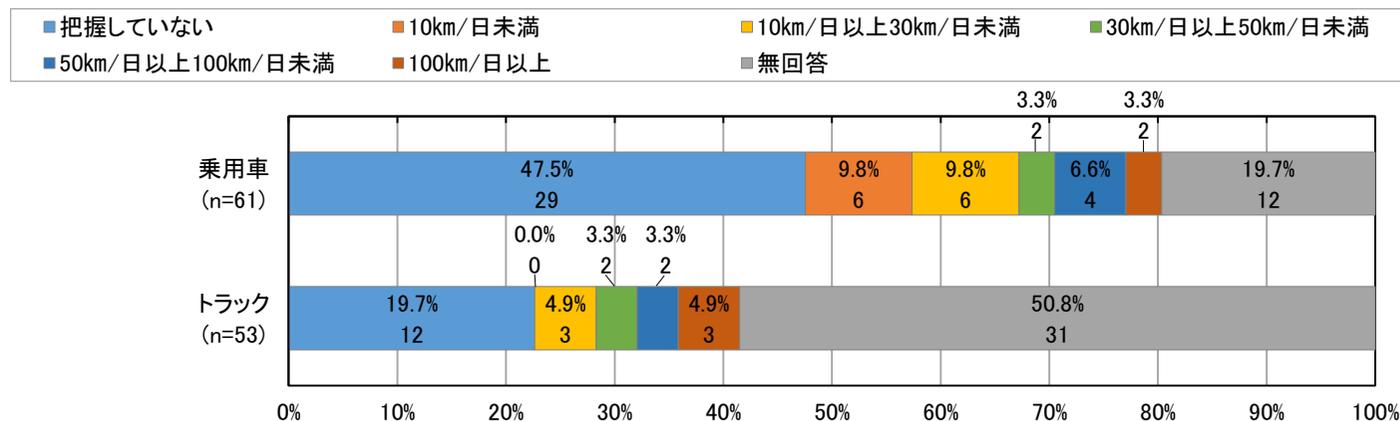


2. 5 設備・エネルギーの利用状況

(3) 社用車（乗用車、トラック）

- 乗用車の平均走行距離は、100km/日未満が29.5%、100km/日以上が3.3%となっている。なお、67.2%が把握していない・無回答となっている。
- トラックの平均走行距離は、100km/日未満が11.5%、100km/日以上が4.9%となっている。なお、70.5%が把握していない・無回答となっている。

【平均走行距離】



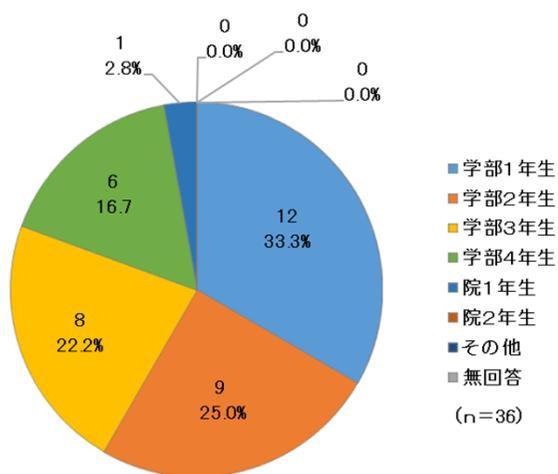
3. 大学生アンケート調査結果

3. 1 回答者の属性

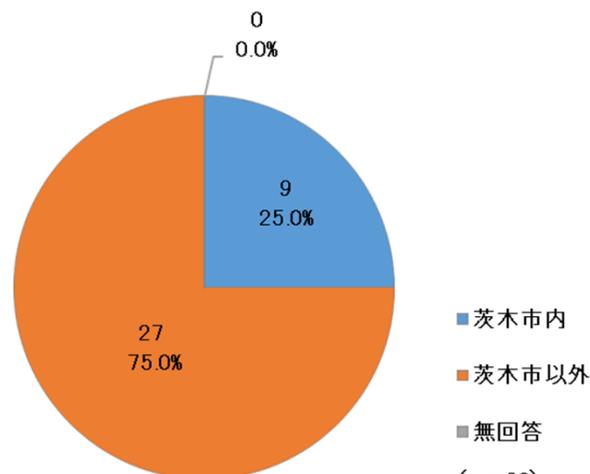
(1) 学年・住所等

- 学年は、「学部1年生」が33.3%と最も高く、次いで「学部2年生」の25.0%となっている。
- 現在の住所は、「茨木市内」が25.0%、「茨木市外」が75.0%となっている。
- 出身地は、「茨木市内」が11.1%、「茨木市外」が88.9%となっている。

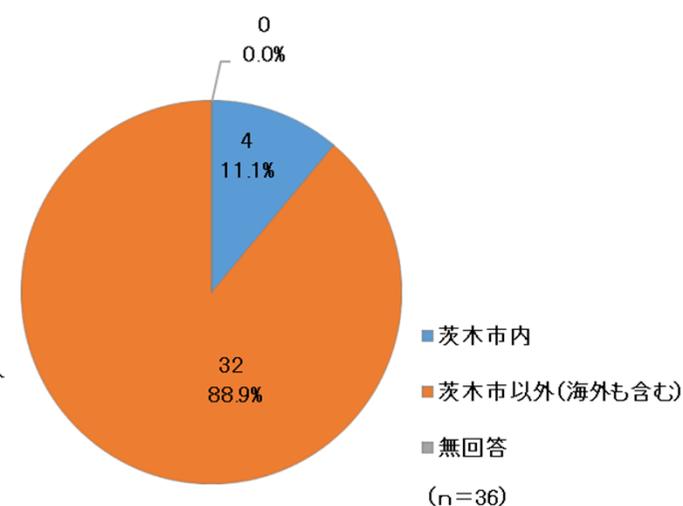
【学 年】



【現在の住所】



【出身地】

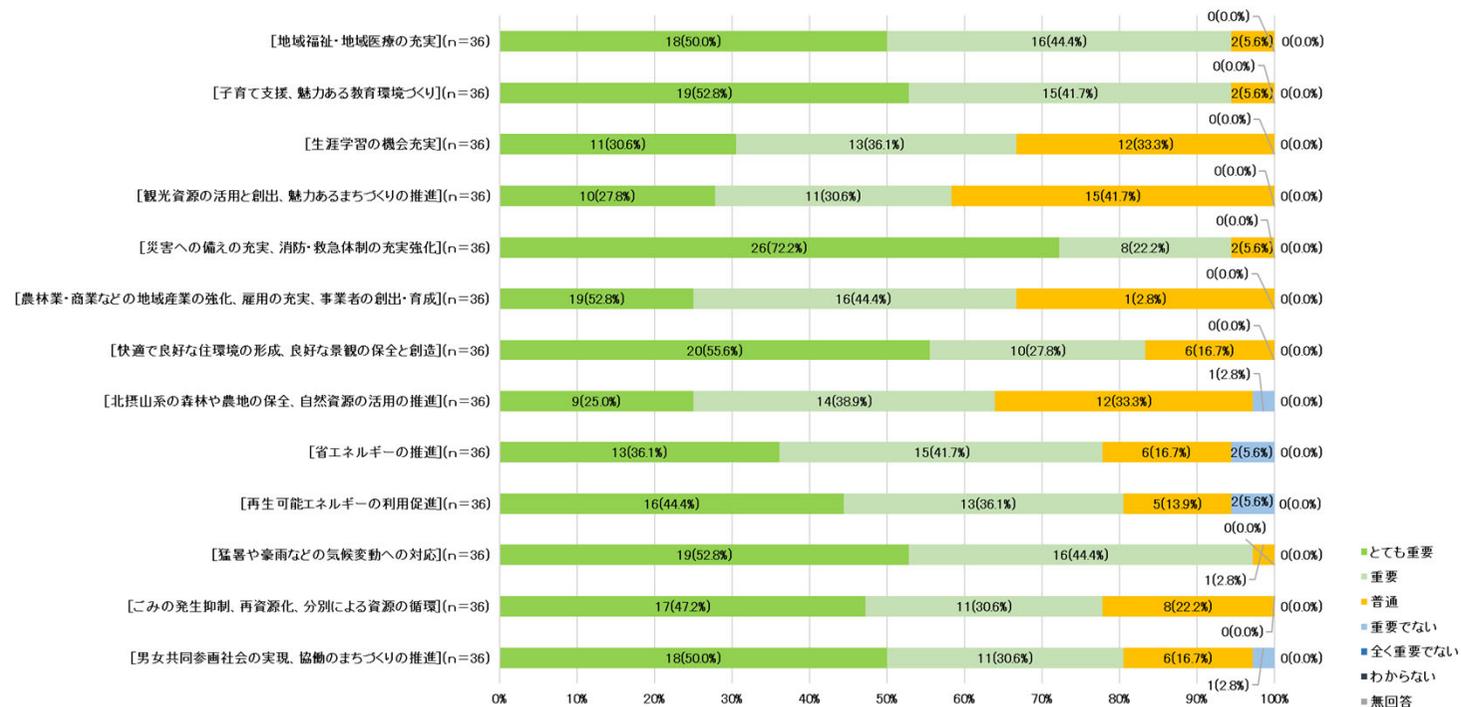


3. 2 茨木市の現状への満足度・重要度

(1) 現状の重要度

- 現状の重要度は、「猛暑や豪雨などの気候変動への対応」が最も高く、次いで「地域福祉・地域医療の充実」「子育て支援、魅力ある教育環境づくり」「災害への備えの充実、消防・救急体制の充実強化」となっている。
- 地球温暖化に関する項目「省エネルギーの推進」「再生可能エネルギーの利用促進」の重要度は他の項目よりも低く、「猛暑や豪雨などの気候変動への対応」は、他の項目と比べて最も高くなっている。

【現状の重要度】

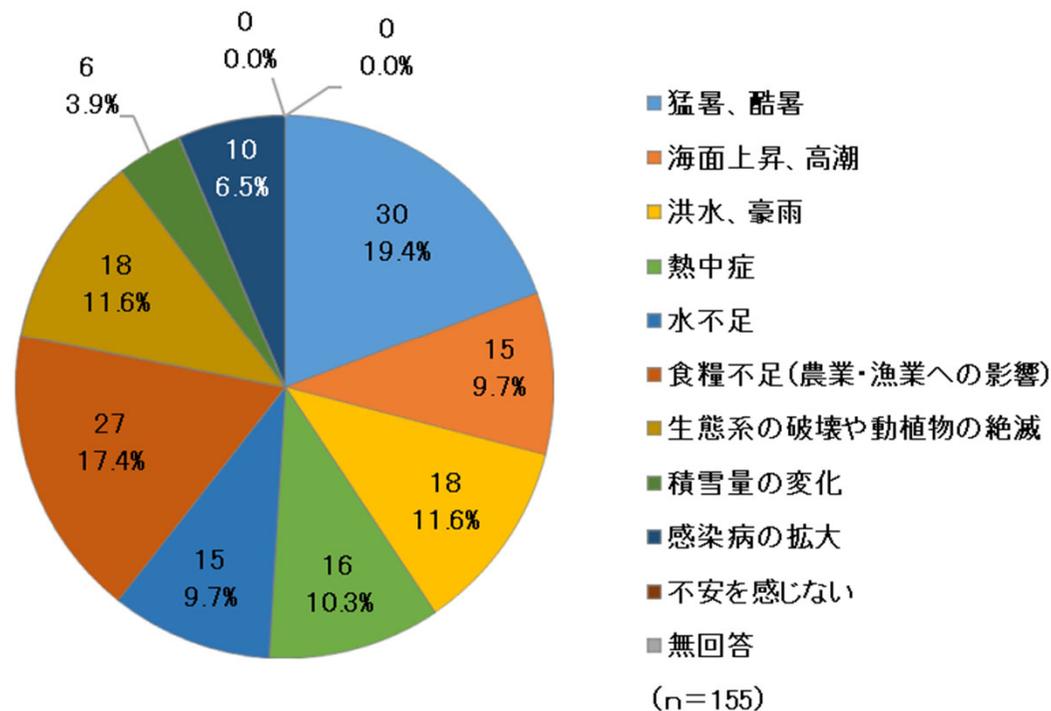


3. 3 地球温暖化への不安・対策への要望

(1) 地球温暖化への不安

- 地球温暖化への不安は、「猛暑、酷暑」が19.4%ともっと高く、次いで「食糧不足」が17.4%、「洪水、豪雨」、「生態系の破壊や動植物の絶滅」が11.6%となっている。

【地球温暖化への不安】



※ 複数回答可。

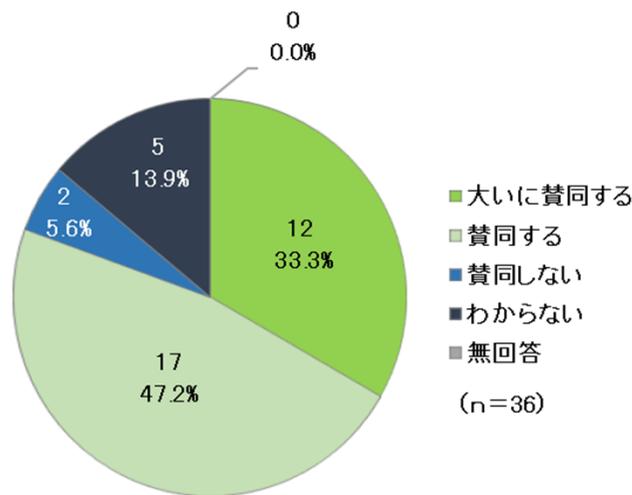
3. 3 地球温暖化への不安・対策への要望

(2) 地球温暖化対策の目標への賛同

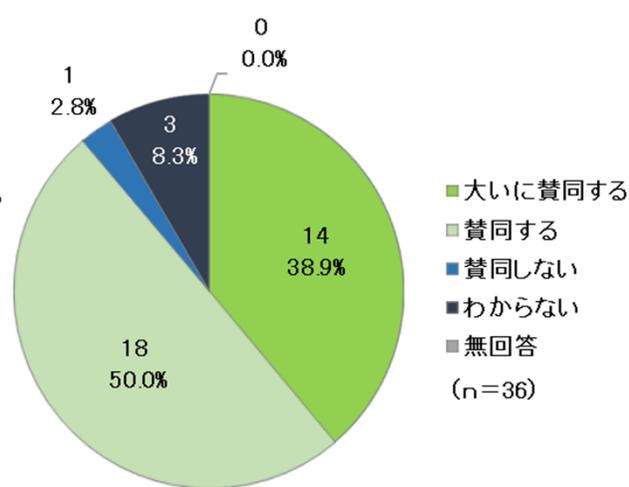
- 地球温暖化対応の目標は、どの項目も約80%以上が「大いに賛同する」「賛同する」となっている。

【地球温暖化対策の目標への賛同】

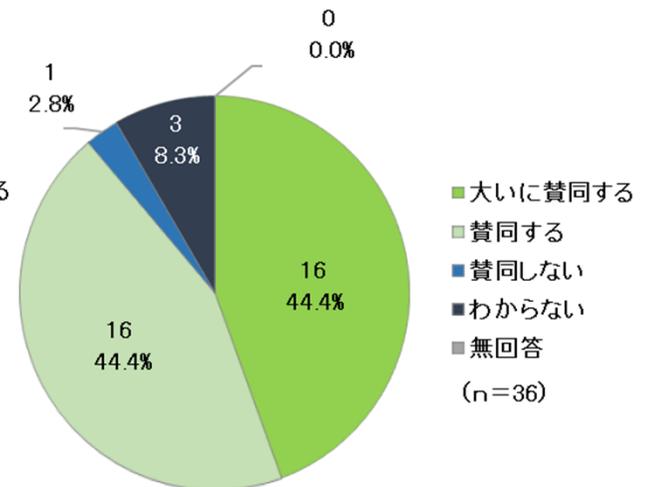
「2050年までに、温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする（2050年カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指す）。」ということを宣言しています。



「2030年度において、温室効果ガスを2013年度から46%削減することを目指す。さらに、50%削減に向け、挑戦を続けていく。」ということを目指しています。



「電力において、再生可能エネルギーが占める割合を、現状（2019年度）の18%程度に対して、2030年度に36~38%程度を見込む。」という見通しを示しています。

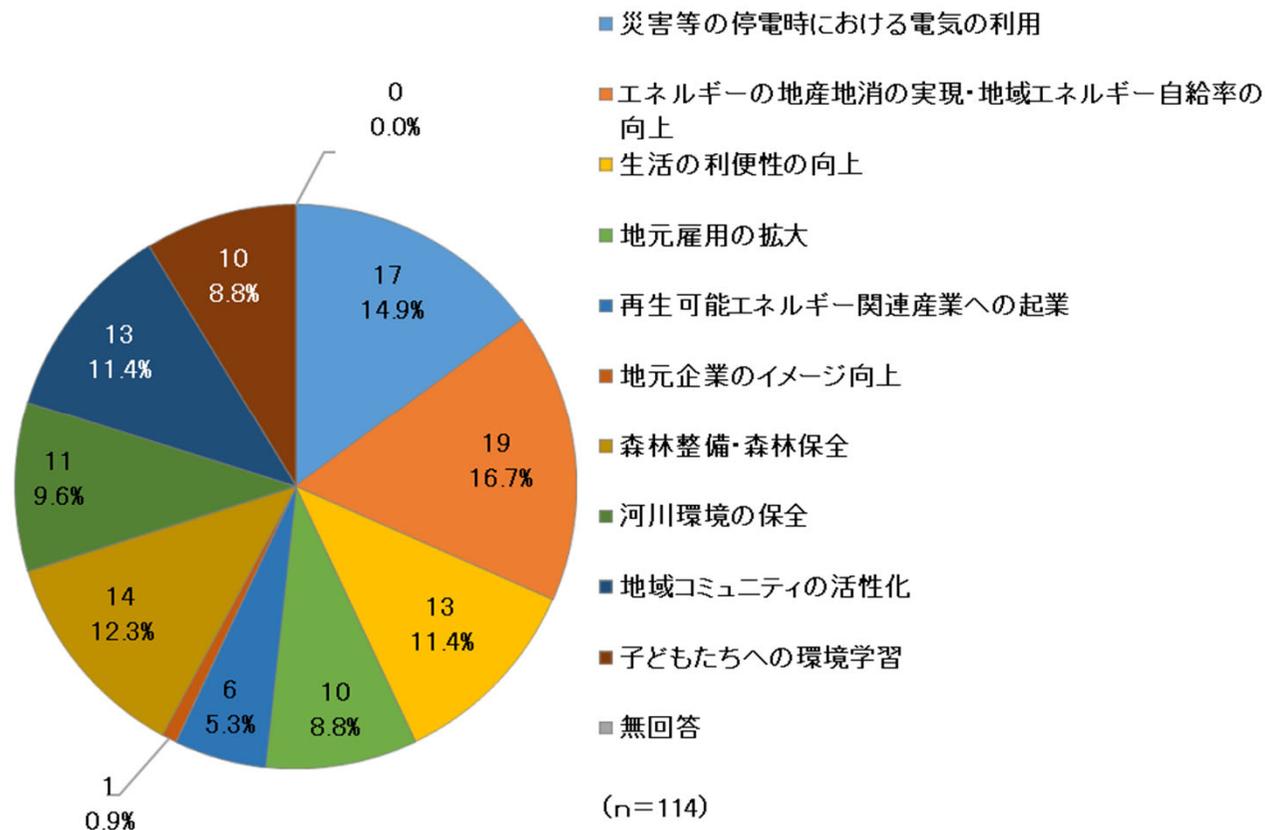


3. 3 地球温暖化への不安・対策への要望

(3) 地球温暖化対策への要望

- 地球温暖化対策への要望は、「エネルギーの地産地消の実現・地域エネルギー自給率の向上」が16.7%と最も高く、次いで「災害等の停電時における電気の利用」が14.9%、「森林整備・森林保全」が12.3%となっている。

【地球温暖化対策への要望】



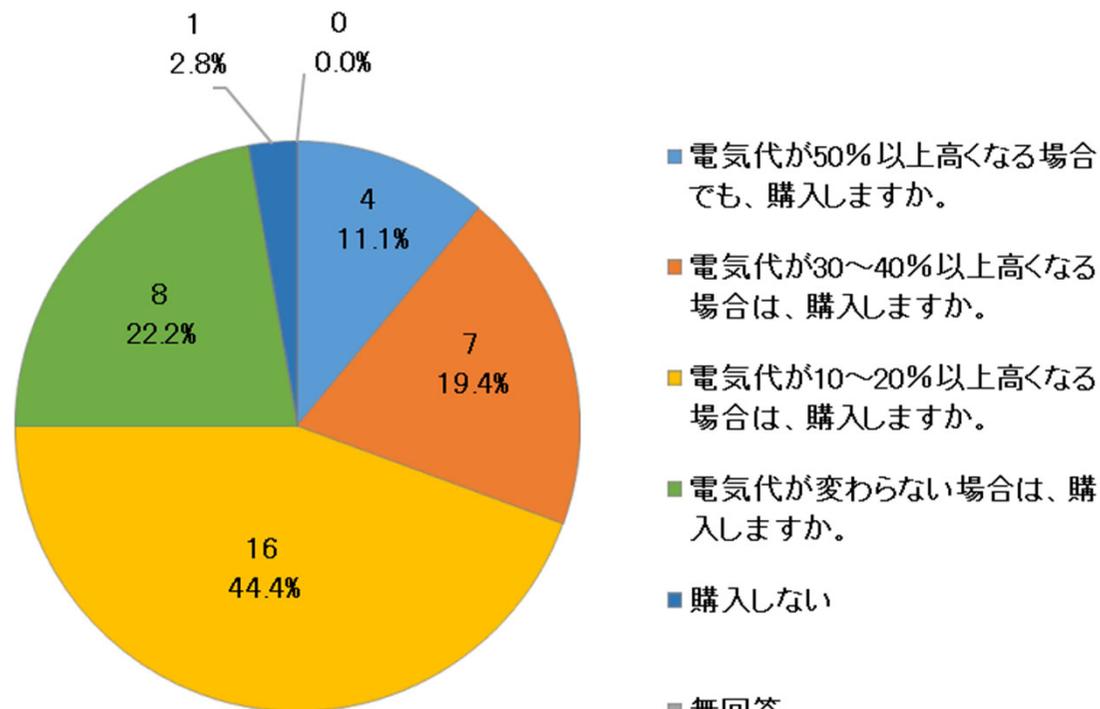
※ 複数回答可。

3. 4 省エネ対策や再エネ導入への考え

(1) 100%再生可能エネルギー電気への切替

- 100%再生可能エネルギー電気への切替については、74.9%が「価格が10%以上高くなる場合でも購入する」となっている。

【100%再生可能エネルギー電気への切替】



(n=36)

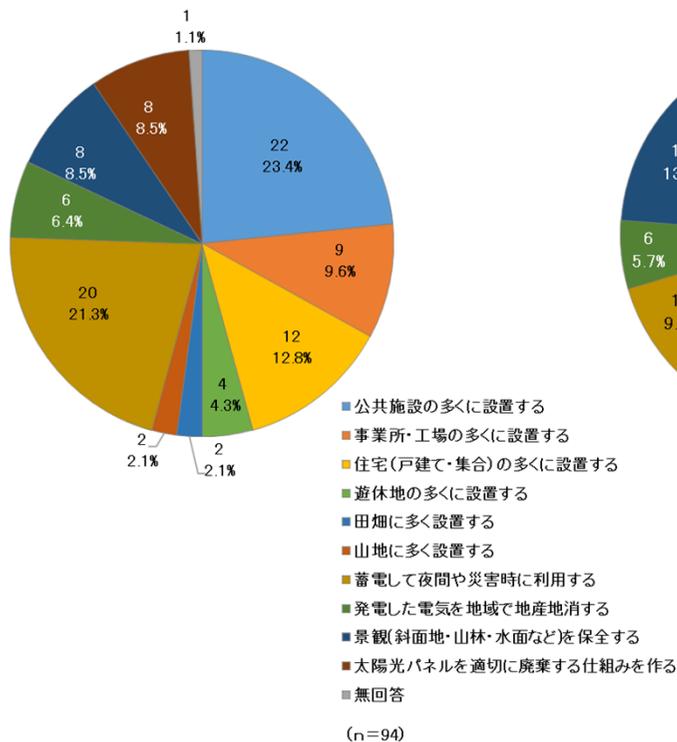
3. 4 省エネ対策や再エネ導入への考え

(2) 再エネ設備の普及に対する考え

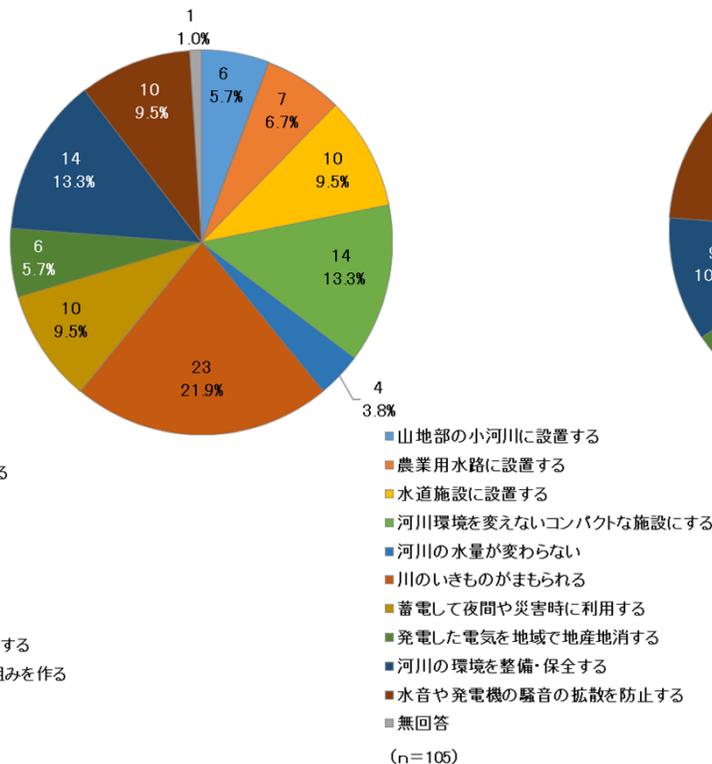
- 再エネ設備の普及に対する考えは、太陽光発電は「公共施設の多くに設置する」が23.4%、小水力発電は「川のいきものがまもられる」が21.9%、木質バイオマス利用が「臭いや煙の周辺への拡散を防止する」が22.6%と最も高くなっている。

【再エネ設備の普及に対する考え】 ※ 複数回答可。

○太陽光発電



○小水力発電



○木質バイオマス利用

